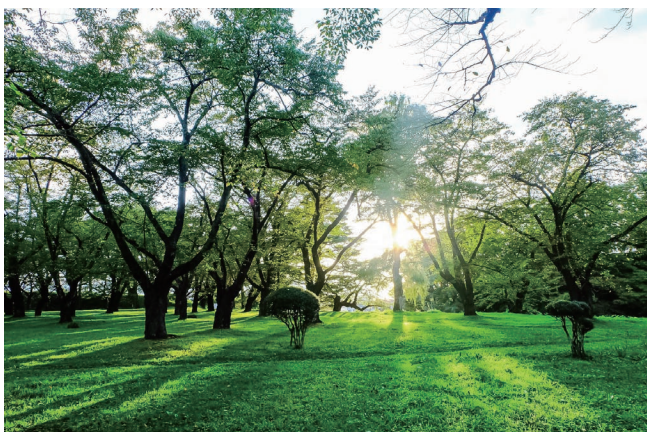


永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2024年 **5-6月**

「わたしたちの高い召し」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

はじめに

「主の重荷の結果」

3

朝のマナ

「わたしたちの高い召し」

4

Our High Calling

力を得るための食事

「もやしの油揚げ巻き」

68

レシピ

お話コーナー

「罪の代価(Ⅱ)」

70

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2024年4月7日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on page 4

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

主の重荷の結果

心に深く重荷を感じながら、イエスは、幾度となく弟子たちの目をひらいて、ご自分の試練と苦難を見せようとつとめられた。しかし、彼らの目は、開かれなかった。それを知ることは気が進まなかった。そこで彼らは見ようとしなかった。…

幾度も繰り返し、まさに破滅のふちで、ペテロの誇る言葉は、彼をますます破滅のきわへ近づけていった。幾度も繰り返し、「あなたは…わたしを知らないと言うだろう」との警告が与えられた。ペテロの悲しい、主を愛する心は「主よ、わたしは獄にでも、また死に至るまでも、あなたとご一緒に行く覚悟です」という誓いの言葉となった。そして、人の心をお読みになるイエスが、ペテロに仰せになった言葉は、そのときは真価がわからなかったが、まもなく急速に襲いかかってきた暗黒の中にあつて希望の光を放った。「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った。それであなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(教育 91,92)

キリストは、ペテロがキリストを拒む前に、「あなたが立ち直ったときには、兄弟たちを力づけてやりなさい」と、ペテロに言っておられた(ルカ 22:32)。このみことばは、この使徒がやがて、信仰に導かれるはずの人々のためになさねばならない、広範で効果的な働きのことを意味していた。…(患難から栄光へ下巻 213)

羊飼いの地位を占める者は、主の群れを注意深く見守らねばならない。…彼らは、忍耐強く、労を惜しまず努力することによって訓練されて、この世において受け入れられる働きをなし、そして来世において光栄と朽ちぬものを与えられるようにしなければならない。…いのちのパンで彼らを養う…忠実な羊飼いが求められている。こうした羊飼いは、自分たちの生活の中で、聖霊の改心させる力を日ごとに感じ、自分たちが働きかける人々に対して強い無私の愛を抱くのである。

もしこの働きに携わる者が、最も自己犠牲の少ないことを選んで、説教に満足し、個人的な伝道の働きをだれか他の人に任せてしまうようなら、彼の働きは神に受け入れられるものとはならない。(患難から栄光へ下巻 225-227)

羊飼いの品性と品行が、彼の主張する真理をよく示しているならば、主はその働きを承認する印を押して下さる。羊飼いと羊の群れは、キリストにある共通の望みによって結ばれ、一つになる。(患難から栄光へ下巻 214)

使徒ペテロは神のことに長い経験を積んできた。…そして彼は、信仰によって前進し、はしごを一段ずつ登って、天の入口にまで達している最上段を目指して上へと絶えず前進する者の前には、失敗の可能性がないのだということを、疑いなく証明するまでになっていた。(患難から栄光へ下巻 233)

わたしたちの高い召し

Our High Calling



すべての祝福の通路である祈り

「また祈るとき、信じて求めるものは、みな与えられるであろう。」(マタイ 21:22)

祈りは魂の呼吸であり、すべての祝福の通路である。人間として必要を感じ、自己嫌悪の念をもって悔いた魂が祈りをささげるとき、神はその苦闘をごらんになり、戦いを見守って、その誠実さを認められる。神はその指を彼の脈におき、一つ一つの鼓動に注意を払われる。その魂をわきたたせる一つの感情でも、魂をかきたてる一つの情緒の動きでも、彼をくもらせる一つの悲しみでも、汚点をつける一つの罪も、またその魂を動かす一つの思いや一つの目的でも、主の気づかれないものはない。その魂は無限の価で買われたのであり、変わらぬひたむきな愛をもって愛されている。……

わたしたちの救い主キリストは、……補給されなければならない肉体的な必要といやさねばならない肉体的疲労とを感じておられた。このお方が義務や試みにそなえられたのは、ご自分の御父への祈りによってであった。日ごとに彼はご自分の義務の道にしたがい、魂を救おうと努められた。このお方は、弱い者や重荷を負っている者にやさしい同情心をよせられた。主は、試みられている者のために夜を徹して祈られた。……

クリスチャンは、祈りのうちに自分の重荷を神にたずさえてくるように、また生きた信仰というひもで自分自身をキリストに結びつけるようにと招かれている。主はわたしたちに祈る権限を与えてくださり、ご自分の無限の力に信頼する者の祈りを聞くと宣言なさった。主は、ご自分に近づく者、ご自分の奉仕を忠実に行う者によって栄光を受けられる。「あなたは全き平安をもって、あなたに思いがとどまっているものを守られる。彼はあなたに信頼しているからである」(イザヤ 26:3 欽定訳)。全能者のみ腕は、わたしたちを案内し、前へ前へと導くためにさしのべられている。前進せよと主は言われる。わたしには事情がよくわかっている、だからあなたに助けを送ろうと言われる。祈り続けなさい。わたしを信じる信仰を持ちなさい。あなたが求めるのはわが名の栄光のためであり、あなたはたしかに受けるであろう。批判的な目であなたの失敗を見張っている者たちの面前で、わたしはあがめられるであろう。そのとき彼らは、真理が栄光のうちに勝利するのを見るであろう。「祈りの時、信じて求めるものは、みな与えられるであろう。」……

真の信仰、真の祈り—それらは何と強いことか。(レビュ・アソド・ヘラド 1900年 10月 30日)

5月2日

神のみ座に至る開かれた門

「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。」
(黙示録 3:8)

真の証人は「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いている」と宣言なさる。心と魂と声とをもって神に感謝しよう。また開かれた門から神に近づくことを学び、願い事をもって自由に行くことができることと主がその祈りを聞き、また答えて下さることを信じよう。わたしたちが確かな勝利を確信して主の戦いを戦う力を受けるのは、主の力を信じる生きた信仰によるのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・初作・コメト] 7 巻 960, 961)

神に忠実であることを求める人々は、多くの世の特権を拒まれるかもしれない。彼らの道はふさがれ、彼らの働きは真理の敵によって妨害されるかもしれない。しかし、神と彼らの魂との連絡の戸を閉ざすことのできる力は、どこにもない。クリスチャン自身が罪におぼれることによって、あるいは天の光を拒むことによってこの戸を閉ざすことはできる。真理のメッセージから、自分の耳をそむけ、こうして、神と自分の魂の連絡を断ち切ることはできる。……日ごとにわたしたちは、わたしたちの前に戸を開いて下さったキリストに自分を結びつける尊い特権が与えられている。全天はわたしたちの意のままである。もしわたしたちが従順な神の子であるならば、日ごとに恵みの供給をくみ出すことができる。どんな試みや誘惑、あるいは迫害がわたしたちにおとずれようとも、失望する必要はない。人であれサタンであれ、キリストがわたしたちのために開かれた戸を、閉じることではできないのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1889 年 3 月 26 日)

いつでも誘惑されるときに、わたしたちには仰ぐべきこの開かれた戸がある。天の入り口から輝き出て、わたしたちが上らねばならないはしごを上から下まで照らす栄光の光を隠すことができる力はない。なぜなら、主はわたしたちに、ご自分の強さのうちに強さを、ご自分の勇気のうちに勇気を、ご自分の光のうちに光を与えてくださったからである。闇の権力が征服されるとき、神の栄光の光が世にあふれるとき、わたしたちは今日よりもはつきりとみとめ、理解するようになる。もし神の栄光がわたしたちを取り巻いていることと、わたしたちが考えているより天は地に近いことを、わたしたちが悟りさえすれば、わたしたちは上にある天国のために準備をしているあいだにも、家庭の中に天国を持っているはずなのである。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・初作・コメト] 7 巻 961)

求める者への祝福

「あなたがたは求めないから得られないのだ。」(ヤコブ4:2)

キリストの恵みなしでは、わたしたちは何もできない。サタンの数々の誘惑に抵抗し、そのあざむきから逃れるためには上よりの助けが必要である。暗黒の満ちているまっただ中であって、落とし穴や、誤りのわなを発見するため神の光が必要である。もしそうでなければ、わなにかかってしまうであろう。わたしたちは、密室においても家族の祭壇においても、祈りの機会をいかすべきである。多くの人はいかに祈るかを学ぶ必要がある。……謙遜になって、わたしたちの欠乏を主に訴えるとき、み霊自らとりなしてください。わたしたちが必要を感じて、すべてをさぐられる全能者の前に自分の魂を包み隠さずにさらけ出し、わたしたちの真剣で熱烈な祈りが幕の内に入り、わたしたちの信仰が神の約束をわがものと主張するとき、助けは来るのである。……

祈りは義務であると同時に特権である。わたしたちは神のみが与える助けを必要としており、その助けは求めなければ与えられない。もし、わたしたちがあまりにも自己を義とし、神よりの助けの必要を感じないならば、もつとも必要としている時に神の助けを得られないであろう。もしわたしたちが独立心や自己満足の念のために、日々熱心な祈りによって、十字架につけられ、よみがえられた救い主の功績にすがろうとしないならば、わたしたちはサタンの誘惑の餌食になるであろう。……熱心で真剣な……祈りは闇の権力に対抗するための力と恵みをもたらす。神は祝福したいと望んでおられる。親がその子供たちに良いものを与えたいと願う以上に、父なる神はご自分に求める者に聖霊を与えたいと望んでおられる。しかし、多くの者は自分の必要を感じていない。彼らはイエスの助けなしには何もできないことを悟っていない。……

わたしは神のみ使たちが、神の力の必要を感じている人々にいつでも恵みと力を与える用意ができていたことを示されてきた。しかし、請い求めなければ、この天よりの使者たちが祝福を与えることはないのである。彼らは、魂が神の祝福に飢えかわいて叫び求めるのを待ってきたが、しばしば無駄に待つことになった。確かにときには無頓着な祈りがささげられたが、心を低く悔い改めた心より出る熱心な嘆願はなかったのである。……

主の祝福を受けたいと望む者は、罪を告白し、神のみ前にへりくだり、真の悔い改めとキリストの血の功績を信じる信仰をもって、みずから道を備えねばならない。(ビュー・アンド・ワールド 1883年7月24日)

5月4日

いかに祈るかを学びなさい

「主よ、……わたしたちにも祈ることを教えてください。」(ルカ 11:1)

キリストは、この祈り〔主の祈り、ルカ 11:2-4〕を形式として繰り返すために、人に与えられたのではない。主はそれをわたしたちの祈りがどのようなものであるべきか—単純で、熱心で、包括的な—実例として与えてくださったのである。(原稿 23、1899 年)

多くの祈りは信仰なくささげられている。言葉の決まった形式が用いられているが、そこにはしきりに願う心がない。その祈りはあやふやで、ためらいがちである。その祈りをささげても、捧げた本人は安堵することがなく、他の人に慰めも希望も与えない。祈りの形式がとられてはいるが、しかし、精神が欠けており、懇願者が自分の必要を感じていないことを表わしている。……

短く要点をついてただあなたの必要としているものだけを求める祈りを学びなさい。神のみがあなたの声を聞きうるところで声を出して祈ることを学びなさい。見せかけの祈りではなく、熱心で心からの嘆願をささげ、命のパンに対する魂の飢えを表現しなさい。密室においてもっと多く祈るならば、公に祈るとき、もっと知的に祈ることができる。あやふやでためらいがちな祈りはなくなるはずである。そして兄弟たちと公の礼拝に参加するとき、わたしたちは集会を益することができるはずである。なぜなら、わたしたちがいくらか天の雰囲気をもたらすなら、礼拝は単なる形式ではなく実際的なものとなるからである。……もし、魂が密室やまた昼間の仕事に携わっている間に祈ることをしないならば、それが祈祷会においてわかるようになるであろう。……

魂の命は神と習慣的に交わることにかかっている。魂の必要がわかるようになり、心は新鮮な祝福を受けるために開かれる。偽りのないくちびるから感謝があふれる。そして、イエスから活気を受けて、それが言葉や、活発な慈善行為、また公の礼拝において表わされる。その心には、イエスに対する愛がある。そして、愛が存在するところでは、それを押さえつけることができず、自ら表現するのである。密かな祈りは内なる命を支える。神を愛する心は、神と交わることを切望し、聖なる確信をもって主により頼む。

知的に祈ることを学び、はっきりと明確に自分たちの要求を表現しよう。言葉どおりに本気で……祈ろう。「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」(ヤコブ 5:16)。(ビュー・アンド・ヘルド 1884 年 4 月 22 日)

心を尽くして主を求めよ

「望みをいなく捕われ人よ、あなたの城に帰れ。わたしはきょうもなお告げて言う、必ず倍して、あなたをもとに戻すことを。」(ゼカリヤ 9:12)

わたしたちは、魂がキリストの豊かな約束をつかむように、しかもしっかりと固くつかむように教育する必要がある。主イエスは、わたしたちが神から与えられる聖なる力を受けさえすれば、サタンの多くの誘惑に立ち向かうことは、不可能でないことをご存じであった。主は、わたしたち人間の力では確実に失敗することをよくご存知である。そのために、あらゆる緊急時や試みのときに、わたしたちがとりでに逃れるよう、すべての備えがなされた。……わたしたちには偽ることのないくちびるより語られた約束の言葉がある。……おのおのわたしたちは、主の約束されたことがらをこのお方から受ける信仰をいだかねばならない。

神は、わたしたちが許すならば、わたしたちにとってどんなものになってもご存じである。わたしたちの活気のない、二心の祈りは天からの答を得られない。ああ、わたしたちはしきりに懇願する必要があるのだが。信仰のうちに求め、信仰のうちに待ちのぞみ、信仰のうちに受け、希望のうちに喜びなさい。なぜなら、すべて探す者は見出すからである。このことについて熱心でありなさい。心を尽くして神を求めなさい。人々は一時的なことがらについて、成功の栄冠をもって報われるまでは、どんなことでも魂をつくし、真剣にとりくむ。熱心な真剣さをもって、神が約束された豊かな祝福を求めるといふ取引を学びなさい。そうすれば、辛抱強い断固とした努力があれば、あなたは神の光と神の真理と神の豊かな恵みを得るようになるのである。(原稿 39、1893 年)

真剣に、魂の飢えを感じて、神を呼び求めなさい。勝利を得るまで天使と組み打ちしなさい。あなたの全存在、すなわち魂と体と霊とを主の手にゆだねなさい。そして神の愛される献身した器となること、このお方のみ旨によって動き、このお方のみ思いに支配され、このお方のみ霊を注ぎ込まれる器となることを決心なさい。(神のむすこ娘たち 105)

イエスに魂の底から真剣にあなたの欠乏を訴えなさい。あなたは神とながく議論する必要も、また神に説教する必要もない。ただ、あなたの罪を心から悲しんで、「主よ、わたしをお救い下さい。さもないと滅びます」と言いなさい。そのような魂には望みがある。彼らは探し、求め、門をたたき、そして見出すのである。魂をおしつぶしていた罪の重荷をイエスが取り去られるとき、あなたはキリストの平安の祝福を経験するようになる。(原稿 29、1896 年)

5月6日

目を覚ますことによる勝利

「誘惑に陥らないように、目を覚まして祈っていなさい。」(マルコ 14:38)

試みがあなたを取り囲んでも、あなたが試みの中に入らない限り安全である。多くの者は誘惑にまっすぐ歩いて入ってゆくためにサタンに征服される。……神からあなたの心をそらせ、義務からあなたを遠ざけるように導く傾向があるすべての人とすべての物から遠ざかるのは、あなたの仕事である。……もし、悪人の社会に入らざるを得ないことになっても、彼らの悪にはいつたり、加わったりするよう強要されているのではない。あなたは祈り、目を覚ますことによって、あなたのまわりの多くの悪の汚れに染まらないことができる。(手紙 16、1867年)

「目をさまして祈っていなさい」とは聖書の中にたびたび繰り返されている勧告である。この勧告に従う人々の生活には、幸せの底流がながれ、彼らが交わるすべての人に祝福をもたらすのである。その性質が気難しく不機嫌な者もやさしく親切になり、高慢な者は柔和で心の低い者となるのである。(原稿 42,1904年)

人間はよく目を覚ましているクリスチャンでない限り、幸福なクリスチャンになることはできない。勝利する者は目を覚ましていなければならない。なぜなら、サタンは世的な混乱と誤りと迷信を通して、キリストからキリストに従う者を奪い取り、サタンの欺きによって彼らの心を占領しようとするからである。わたしたちがきわだつ危険や危険性の高い矛盾した動きを避けるだけでは十分ではない。わたしたちはキリストのそば近くに立ち、自己否定と自己犠牲の道を歩まねばならない。わたしたちはよくありがちな強くて意固地な意志によって、霊的識別力を曇らされてはならない。サタンの策略を見破り、彼の思わぬ攻撃に立ち向かうためにわたしたちはキリストの恵みを受け、主の霊を分け与えられねばならない。……

神の言葉は、わたしたちには無数の敵があることと、彼らが公然と名乗って来る敵ではなく、なめらかな言葉やきれいな話をもって、できれば選民をも惑わそうとしてくることを警告している。このようにサタンは来る。そしてまた、サタンの目的にかなえば、彼は、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを求めて歩き回るのである。神の意志に従っていない限り人の意志は神の側にいるよりもしばしば、敵の側にいるのである。だから、いつも目を覚ましつつ祈り、祈りつつ目を覚ましていなければならない。(手紙 5、1903年)

謙遜な根気強い祈り

「エリヤは、わたしたちと同じ人間であったが、雨が降らないようにと祈をささげたと、三年六か月のあいだ、地上に雨が降らなかった。それから、ふたたび祈ったところ、天は雨を降らせ、地はその実をみのらせた。」(ヤコブ 5:17, 18)

エリヤの経験を通して、わたしたちは尊い教訓を示されている。カルメル山にて彼が雨のために祈ったとき、彼の信仰は試された。しかし、彼は自分の求めを根気強く神に告げたのであった。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 巻 1034)

エリヤが祈っている間、しもべは見守っていた。6 回見に行ったが帰ってきて何もありません。雲も、雨の兆候もありません」と言った。しかし、預言者は失望してあきらめたりしなかった。彼は自分の生活をかえりみて神に名誉を帰することに失敗したかどうか考えてみた。……彼が自分の心を探るにつれて、自分自身で考えても、また神からご覧になっても、自分がますます小さくなるように思えた。彼にとっても自分自身は無であり、神がすべてに思えた。救い主を自分自身の唯一の力また義として寄りすがりつつ、自己を否定するところまでいたったときに、答えがきた。しもべが来て「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」と告げたのであった(列王紀上 18:44)。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 巻 1035)

わたしたちには、わたしたちの願いに耳を閉ざされることのない神がおられる。そしてわたしたちが神のみ言葉をためすとき、このお方はわたしたちの信仰を尊んでくださる。神はわたしたちのすべての関心をご自分の関心に織り合わせるように望んでおられる。そのとき、主がわたしたちを祝福されても安全なのである。なぜなら、祝福がわたしたちのものとなっても、自分に栄光を帰することなく、神にことごとく讃美を捧げるようになるからである。神は必ずしもわたしたちが一度目に祈ったときに答えてくださるとは限らない。なぜなら、もし神がそうなるならば、わたしたちは神が自分たちに与えてくださったすべての祝福と好意を当然受ける権利があると考えられるかもしれないからである。わたしたちが心に何か悪をいだいてはいないか、何か罪にふけてはいないかを調べるために自分の心をさぐるかわりに、不注意になって、自分たちが主により頼んでいることを自覚しなくなるのである。……

エリヤは自分に栄光を帰することがないような状態になるまで自らをへりくだらせた。その状態こそ主が祈りを聞いてくださる条件である。なぜなら、そのときこそ、わたしたちは主を讃美するからである。……神のみが栄光を受けるのにふさわしい。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 巻 1034)

5月8日

神の答えを待て

「主の救を静かに待ち望むことは、良いことである。」(哀歌 3:26)

聖書の中に主を待ち望む者に対する尊い約束がある。わたしたちはだれでも祈りに対して直ちに答えがくることを望むので、祈りが直ちに聞かれず、失望するよう誘惑される。しかし、わたしの経験は、これが大きな間違いであることを教えてくれた。遅れることはわたしたちの特別な利益のためである。わたしたちの信仰が真実で誠心なものか、あるいは海の波のように変わりやすいものであるかを調べるためにテストされるチャンスとなる。わたしたちは愛と信仰という強いひもで自分を祭壇に結びつけ、忍耐に十分な働きをしてもらわねばならない。信仰はたえず働かせることによって強くなる。(手紙 37、1892 年)

わたしたちはもっと多く、そして信仰のうちに祈らねばならない。祈っておきながらその後、答えを受けるのを恐れているかのように逃げだしたりしてはならない。神はわたしたちを笑いのものにされない。主は、もしわたしたちが目覚まして祈るならば、求めたものは必ず受けると信じるならば、そして信じつづけ、信じることに耐え忍びを切らさないならば、必ず祈りをきいてくださる。これが目を覚まして祈ることである。わたしたちは信仰の祈りを期待と希望で守らねばならない。確証の城壁で祈りをとりかこみ、信仰のない者ではなく、信じる者にならなければならない。義人の熱心な祈りは、決して失われることがない。その答えはわたしたちの期待通りには来ないかもしれないが、それは必ず来る。なぜなら、神の言葉がかかっているからである。(手紙 26、1880 年)

わたしたちは神を静かに待つ必要がある。この必要はさし迫ったものである。わたしたちの有用さを証明するのは、この世においてわたしたちが騒々しくしたり、せわしく動いたりすることによるのではない。神がいかに静かに働かれるかを見なさい。……神と共に働くことを願う者は、毎日このお方の霊を必要としている。彼らは柔和とへりくだりの精神のうちに歩み、そして働き、何か特別に大きなことを成し遂げようとすることなく、目の前にある働きをなすことに満足し、それを忠実になす必要がある。人は彼らの働きを認めせず、また感謝もしないかもしれない。しかし、これらの神の忠実な子らの名前は、神のもっとも尊い働き人たちの中に交じって、栄光ある収穫をあおぎみてこのお方の種をまき散らした者として天に記録される。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホブ・コメント] 4 巻 1144)

主を待ち望みなさい、いらだちながら不安げに待つのでなく、ひるまない信仰とゆるがない信頼のうちに待ち望みなさい。(手紙 66、1901 年)

記憶の部屋にかざられる記念物

「その時サムエルは一つの石をとってミツパとエシャナの間にすえ、『主は今に至るまでわれわれを助けられた』と言って、その名をエベネゼルと名づけた。」(サムエル上 7:12)

有名な神の人の信仰や経験に関連した伝記を読むよりも、わたしたちが自分自身で受けたもっとも小さな祝福の方が、より大きな励ましとなる。神の尊い約束を通して自分自身が経験した祝福を、わたしたちは記憶の間にかけることができる。そして富める者も貧しい者も、学問がある者も無学な者も、これらの神の愛のしるしをながめ、考えることができる。一つ一つの神の保護といつくしみと恵みのしるしは、記憶の間に朽ちることのない記念物として掛けておくべきである。神はご自分の愛とご自分の約束を心の碑にしるすように望んでおられる。神の尊い啓示を大切にし、たとえ一字でも消えたり、ぼやけさせたりしてはならない。

イスラエルがエジプトを去って後に特別な勝利を得たとき、これらの勝利の記念碑がとっておかれた。モーセとヨシュアはこうして、記念碑を建てるように神より命じられた。イスラエル人がペリシテ人に対して特別な勝利を得たとき、サムエルは記念の石をたててエベネゼルと名づけ、「主は今に至るまでわれわれを助けられた」と言った。……

わたしたちは過去をふり返るとき、新たな試練やまじ加わる困難—たとえそれが苦悩、欠乏、死別などであっても—を見ても失望することなく、過去をながめて「主は今に至るまでわれわれを助けられた」ということができないであろうか。わたしは忠実な創造主であられるお方にわたしの魂の守りをお委ねする。このお方はわたしがこのお方に信頼してお委ねしたものをかの日まで守ってくださるのである。(原稿 22、1889年)

記念碑、すなわち主がわたしたちを慰め、また破壊者の手からわたしたちを救うためになさったことを思い起こさせるものを眺めよう。神のわたしたちに示されたすべてのやさしいあわれみ—主がぬぐってくださった涙、和らげてくださった苦痛、取り去ってくださった心配、取り除いてくださった恐れ、満たしてくださった欠乏、与えられた祝福—を絶えずいきいきと心に留めよう。そのようにすることによって、わたしたちは残りの旅路の前途にあるどんなことに対しても自分自身が力づけられるのである。(キリストへの道 175、176)

5月10日

神の前の山で

「主は言われた、『出て、山の上で主の前に、立ちなさい。』」（列王紀上 19:11）

この命令は、わたしたちの中で自分の失望を見つめ、弱点を悲しみ、この世に神への不信頼の見本を示し、見て生きることを拒むすべての者に対して与えられている。……あなたは命の光がさしこまない暗黒の洞穴に閉じこもることによって、神と人との敵を喜ばせるのである。

わたしはイエスのために声をあげて「御子を信じる者はひとりも滅びないで、永遠の命を得る」と言いたい。信仰によって洞穴から出てきなさい。あなたの助け主であられるイエスを仰ぎなさい。世の罪を除く神の小羊を仰ぎなさい。十字架にかけられたあなたの贖罪の犠牲、すなわち罪人のために死のうとしておられる罪なきお方を仰ぎなさい。……

ご自身をお捧げしたこのお方の供え物は全きものであり充分であった。何の不足もなかった。なされた贖罪は、じつに完全であり充分なものである。それなのになぜ……あなたは言葉や実例によって、キリストはあなたのために無駄に死なれたとほめめかすのか。比類なき愛が表されたのに、あなたは疑いや嘆きの失望の言葉によって、「主はわたしを愛しておられない。主はわたしをお許しにならない。わたしの罪はイエスの血によって癒されるにはあまりにもむずかしい性質（たち）のものだ。主の犠牲はわたしの魂を救うために、わたしが負っている負債を払うに十分な価値がない」と言う。

もし男も女も自分の不信と嘆きのつぶやきが、いかにサタンを得意がらせ、彼に名誉をもたらすものであるか、またその一方で自分たちをあらゆる罪から完全にあますことなく救ってくださる働きにおいていかにイエス・キリストからその栄光を奪うものであるかに気がつき、自覚しさえすればよいのだが。……暗黒の洞穴から出よう。自分たちにとってイエスがどういうお方であるかをはっきり見きわめるために、知力を教育しよう。信仰によって神の前で山上に立ち、いかなるまたすべての誘惑の下でも神にあって強くあるために、わたしたちの思いを訓練しよう。

山においてこそ、わたしたちはイエスを正しく見るのである。サタンはあなたの魂とイエスの間に憎むべき影を落したり、わたしたちの視野からイエスの姿を隠したり、イエスを偽って伝えたり、心に主のいつくしみ深さやそのあわれみや、またわたしたちを愛しておられるその愛に対する冷酷な不信仰を起こさせたりする力がなくなるのである。（原稿 42、1890 年）

防壁である神の律法

「おのが道を全くして、主のおきてに歩む者はさいわいである。」(詩篇 119:1)

宇宙の偉大なる統治者である神は、すべてを法則の下におかれた。小さな花も、そびえ立つかしの木も、砂粒も、雄大な大洋も、日光も夕立も風も雨もすべて自然の法則に従っている。しかし、人はより高い法則の下におかれている。人には、神の偉大な道德律の力強い要求、すなわちこのお方がご自分の子らにどのようなことを望んでおられるかという表明を悟るための知性と、感じるための良心とが与えられている。

神はだれも誤ることがないように明白にみこころを表わされた。神はすべての者が神の律法を正しく理解し、その原則の力を感じるように望んでおられる。なぜなら、彼らの永遠の利益が、ここにかかっているからである。広範囲にわたる神の律法の要求について理解する者は、罪の悪質さをいくぶんか理解することができる。また、神の要求に対する観念が高められれば高められるほど、自分に与えられた罪のゆるしに対する感謝もますます大きくなるのである。……

罪人は自分の力では神の要求を満たすことはできない。罪人は彼のために身代金を払われたお方の所へ助けを求めて行かねばならない。……

キリストはわたしたちの希望である。主に頼る者はきよめられる。キリストの恵みと神の統治は、完全な調和を保って両立する。イエスが人間の身代わりとなられた時、いつくしみとまことは共に会い、義と平和とは互いにくちづけした。カルバリーの十字架は神の律法の高い要求を証言している。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1901年7月31日)

十誡を、恵みの側からよりも、禁止の側からばかり見るようなことがあってはならない。その禁止は服従による幸福を保証している。キリストにあって受け入れるとき、律法はわたしたちのうちに働いて品性を清めるものとなり、それは永遠にわたってわたしたちに喜びをもたらすのである。服従する者にとって律法は防壁である。わたしたちは律法の中に神のいつくしみ深さを見る。このお方は義の不変の原則を人に示すことによって、彼らを罪の結果である悪から守ろうとしておられる。(エルクテッド・メッセージ 1巻 235)

5月12日

人生の完全な規則

「そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。」(黙示録 11:19)

わたしたちの贖い主は「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた」とあかししておられる(黙示録 3:8)。この神の宮に通じる開かれた門を通して、わたしたちは契約の箱の中におさめられた王家の律法を見ることができる。この開かれた門を通して、聖にして正しく善である律法から光が輝き出て、人に義のまことの標準が提示されている。それは、人が神のご要求にみあう品性を形成する際に、間違いを犯すことがないためである。罪はこの律法によって罰せられる。わたしたちは罪を捨てねばならない。柔和で心のへりくだった主をおしのけなにかぎり、誇りと自我は品性のうちに入り込むことはできない。

神の律法は品性を試す標準である。もしわたしたちが自分自身に都合のよい標準をうちたて、また自分自身で考案した標準に従おうとするならば、わたしたちは最終的に天を得ることに完全に失敗することになる。……

心は自由の律法に服従しなければならない。この律法は、神の霊がわたしたちの心に印象づけ、理解できるように明らかにしてくださる。罪を取り除くことは、魂自身がその最も高貴な能力を働かせて、みずからなすべき働きでなければならない。有限な人間が享受できる唯一の自由は、人を神性にあずかるものとする条件を満たすことによって、神のみ旨に調和することにある。(ビュ・アト・ハルト 1885年11月24日)

シナイ山で与えられた神の律法は、無限な神の思いと意志の写しである。天使たちはそれをきよくあがめている。この要求に対する服従は、クリスチャン品性を完成し、キリストを通して、人類を墮落前の状態に回復する。律法に禁じられた罪は、決して天に入ることはできない。

神に十誡の十のいましめの中でご自分のみ旨を表現なさるよう促したのは、人に対する神の愛であった。……神はご自分の律法の中で生活上の完全な規則をお与えになった。従うならば、人はキリストの功績を通して、律法によって生きるのである。そむくならば、律法には罰する力がある。律法は人をキリストの許に送り、またキリストはふたたび彼らに律法をさし示されるのである。(ビュ・アト・ハルト 1881年9月27日)

天のためにはかる

「正しいはかりをもってわたしを量れ、そうすれば神はわたしの潔白を知られるであろう。」(ヨブ 31:6)

正しいはかりがすべてである。それはまさしく神の律法である。神はご自分の律法を人のもっとも小さな行動や取り扱いにまで及ぼさせ、人はそれを学び、それに生きることによって心と愛情が高められ、高尚にされ、聖化され—最も小さいことにも忠実になることができる。(原稿 62、1896 年)

神は動機と目的と品性を量られる。すべての人は聖所のはかりで量られる。神はわたしたちがこの事実を悟るように望んでおられる。ハンナは「主はすべてを知る神であって、もろもろのおこないは主によって量られる」と言った(サムエル上 2:32)。ダビデは「低い人はむなしく、高い人は偽りである。彼らをはかりにおけば、彼らは共に息よりも軽い」と述べたのであった(詩篇 62:9)。イザヤは「もっとも正しいあなたは、正しい者の道を量られる」と言っている(イザヤ 26:7)。
.....

天の神は真実であられる。神が知ることのできない心の底の動機も、わたしたちのうちにある秘密も計画もない。それでは義の標準とは何であろうか。神の律法である。神の律法がはかりの一方におかれる。神の聖なる不変の律法の要求は、はじめの四条で神への最高の愛を、あとの6条で隣人への愛について具体的に述べている。「心をつくし、……主なるあなたの神を愛せよ。……自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」(ルカ 10:27)。この標準からわたしたちはどんなに小さい分子でも一つとして削ることはできない。神は心と意思と魂と力の一切を、そして「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」と要求しておられる。これがはかりの一方の皿におかれ、もう一方には一人ひとりすべての人の品性が次々とおかれ、はかりのテストを受けなければならない。そして、その公正な比較によってすべての人間の運命には取り消すことのできない決定が下されるのである。……

「はかりで量られて、その量の足りないことがあらわれた」と書かれるのであろうか。もし、神の日に足りないことが発見されれば、恐るべきことになる。だから自分の動機と行動を神の律法に照らして注意深く調べ、すべての罪の行いを悔い改め、罪人として欠乏を補うためにキリストの功績をしっかりとつかみたいのである。キリストの血のみがこのことをなし得る。(原稿 65、1886 年)

5月14日

心からの忠誠

「人にへつらおうとして目先だけの勧めをするのでなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い。」(エペソ 6:6)

エホバの律法は非常に広いものである。イエスは……その弟子たちに神の聖なる律法は、言葉や行いによると同じように、思想や感情や願望によっても破られるのだとはつきり宣言された。神を最高に愛する心は、神の戒めを可能な限り最小限のご要求に絞ろうなどとは、夢想だにしない。そうではなく、従順で忠実な魂は、律法がその霊的な力のうちにあるのを認めるとき、喜んで最大限に霊的な服従をおささげするのである。そのとき、律法は本当の力をもって魂の奥底にとどく。罪は、はなはだしく罪深いものとして表れる。……もはやそこには自己義も、自尊心も、自己栄誉も存在しない。自己防衛もなくなる。罪の深い自覚と自己嫌悪がその結果であり、絶体絶命の危機に瀕しているという自覚のうちに、魂は自分の唯一の治療法として神の小羊の血にすがりつくのである。……

今日多くの者は自分の魂を欺いている。彼らは神の戒めを外面の行為のみを罰するものとして制限し、思想や感情によって神の名誉を傷つけることを罪とみなさない。彼らは、自分たちの生活や品性が、天の書に銀板に写し取られ〔写真に撮られ〕るとき、自分たちが神の律法の違反者としての烙印をおされることなく、どれくらいまで悪行の道に進んでいけるかをあえて試してみる者として現されているにもかかわらず、自分はエホバの律法を守っているとうぬぼれている。……

すべての不義から離れたいと希望している魂は、……つねに思想において、言葉において、また品性において主の側に立つよう努力し、このお方のすべてのご要求に従うのである。神の戒めを逃れる機会をさがすかわりに、彼は神の広範囲にわたる律法を最大限に解釈し、意志と愛情と全心が、神の聖なる戒めの偉大な原則を例証するよう、この上なく熱心に努力するのである。……この働きは心の中から始まらなければならない。……もし心が神に対して正しければ、生活全体が純粋になり、洗練され、高貴になり、聖化される。もし目が澄んでおれば、全身も明るいのである。宗教は外面の問題ではない。……宗教は心の問題である。(手紙 51、1888 年)

まじりあう律法と福音

「すると、信仰のゆえに、わたしたちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。」(ローマ 3:31)

わたしたちは、敵によって欺かれている実に多くの人々が、絶えず「わたしは救われている」と主張しているのを聞く。しかし、……彼らは神の義の規則を軽蔑することによって、彼らが……救いの恵みを全然知らないことを表わしている。その心は神の律法と調和しておらず、むしろ律法に敵意をいだいている。このようにして天において大いなる反逆があった。主は神の宇宙の律法を全然尊重しない男女を天に連れて行かれるであろうか。……

もし罪人が、何が罪であるかを知らないとすれば、どうやって彼に彼自身の罪をわからせることができようか。神のみ言葉の中で、罪に対する唯一の定義は、ヨハネ第一 3: 四に与えられている。「罪は不法である」。罪人は自分が違反者であることを感じさせられなければならない。カルバリーの十字架上で死んでいかれるキリストが、罪人の注意を引いておられる。なぜキリストは死なれたのだろうか。なぜなら、それが人を救う唯一の方法であったからである。……キリストはわたしたちの罪をご自分の身に負われ、それによって彼を信じるすべての者にご自分の義を着せることができになるようにしてくださった。……神のいつくしみ深さと愛は、神に対する悔い改めと主イエス・キリストに対する信仰へと罪人を導く。目覚めさせられた罪人は、……自分の犯した律法をさし示される。律法は彼に悔い改めを促すが、律法そのものには律法の違反を許すという救いの資質はなく、罪人の判決には望みがないように見える。しかし、律法は彼をキリストへ導く。彼の違反の罪がいかに深かろうとも、イエス・キリストの血は、彼をすべての罪からきよめることができるのである。……

律法と福音は手に手をとって進んでいく。一方は他方を補充するのである。キリストの福音を信じる信仰のない律法は、律法の違反者を救うことができない。律法のない福音は、効力がなく、無力である。律法と福音は完全な統一体である。主イエスは、建物の基礎をしき、このお方は「『恵みあれ、これに恵みあれ』と呼ぼわりながら、かしら石」をすえられた。(ゼカリヤ 4:7)。彼はわたしたちの信仰の創始者であり、またその完成者であり、アルパでありオメガであり、初めであり、終りであり、最初であり最後である。この混ぜ合わされた二つのもの—キリストの福音と神の律法は一偽りのない愛と信仰を生み出すのである。(原稿 53、1890 年)

5月16日

純潔への道

「彼についてこの望みをいただいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」(ヨハネ第一 3:3)

この聖句は、人間が自分の魂から一つでも罪の汚点を取り除くことができるという意味であろうか。否。では自らきよくするとは何を意味しているのだろうか。それは、主の大いなる義の道徳的標準、すなわち神の聖なる律法をながめ、その律法の光によって自分が罪人であることを認めることを意味する。「すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。あなたがたが知っているとおり、彼は罪を取り除くために現れたのであって、彼にはなんらの罪がない」(ヨハネ第一 3:4, 5)。人間が純潔にされ、清められるのは、……イエス・キリストを信じる信仰を通してである。……「すべて彼における者は、罪を犯さない」(同 6)。神には、キリストのうちにいる魂を守る力がある。……単に信心を公言するだけでは価値がない。キリストのうちにやどる者こそ、クリスチャンなのである。……

あらゆる地方、あらゆる国において、わたしたちの青年は神と協力しなければならない。人が清くなる唯一の道は、神と同じ思いを持つようになることである。いかにして神を知ることができようか。神のみ言葉を研究することによってである。……

神の思いが、人の思いとならないかぎり、自らを清めようとする人間の努力はむだである。なぜなら、神の知識によらなければ、人間を向上させることはできないからである。人は外側に虚飾を身につけ、イエスが死人の骨やあらゆる不潔なものでいっぱいな「白く塗った墓」だと描写されたパリサイ人のようにすることはできる。しかし魂のあらゆる醜さは、正しくさばかれるお方の前にはあらわであり、真理が心に植えつけられない限り、それは生活を支配することはできない。杯の外側を清めても、内側は清くならない。名目上真理を受け入れることはうまくいくあいだは良いことであり、またわたしたちの信仰の理由を説明する能力は良い成果ではある。しかし、もし真理がこれ以上深くすまないのであれば、魂は決して救われない。心はすべての道徳的汚れから清められなければならない。「わが神よ、あなたは心をつためし、また正直を喜ばれることを、わたしは知っています」(歴代志上 29:17)。「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください」(詩篇 139:23, 24)。(手紙 13、1893 年)

啓発された良心

「わたしはまた、神に対しまた人に対して、良心に責められることのないように、常に努めています。」(使徒行伝 24:16)

神の言葉の中には良い良心と悪い良心が書いてある。……あなたの良心を神の言葉にてらし、あなたの生活と品性が、神がそこで明らかにしておられる義の標準に見合っているかどうかを調べなさい。そのときあなたは自分が知的信仰を持っているか、またあなたの良心はどのようなものかをわきまえることができる。人の良心は、神の恵みの感化力のもとにいかぎり、信頼することができない。サタンは啓発されていない良心につけこみ、それによって人をどんなかたちにしる誤った思い込みへと導くのである。(ビュー・アソド・ヘルド 1901年9月3日)

自分の良心の指示に従っていれば自分は安全だと考えるだけでは充分ではない。……はっきりさせるべき問題は、その良心が神のみ言葉と調和しているかということである。もし、調和していなければ、安全に従うことはできない。なぜならその良心は欺くからである。良心は神によって啓発されねばならない。聖書研究と祈りに時間を取らなければならない。このようにして思いは確立され、強められ、定着するのである。(手紙 21、1901年)

神に承認され、祝福していただくように生きることは、すべての者の特権である。あなたは時々刻々、天と交わることができる。あなたがいつも有罪宣告と暗黒の下にあることは、あなたの天父のみ旨ではない。あなたが自分の価値を下げることを神はお喜びにならない。あなたは自分自身の良心に是認され、また人々やみ使たちの前で是認されるような生き方をすることによって、自己尊重の念をつちかわねばならない。……イエスの許に行つて、清められ、恥や良心のとがめなく律法の前に立つことは、あなたの特権である。「こういうわけで、今やキリスト・イエスにあり、肉によらず、霊によってあゆむ者は、罪に定められることがない」(ローマ 8:1 欽定訳)。わたしたちは自分の思うべき限度をこえて自己評価をしてはならないが、その一方で神の言葉は、しかるべき自己尊重の念をとがめるものではない。わたしたちは神のむすこ娘として、誇りや自己尊大とは無縁な、品性の良心的な尊厳を持つべきである。(ビュー・アソド・ヘルド 1888年3月27日)

神と人に対して呵責のない良心は、すばらしい取得物である。(原稿 126、1897年)

5月18日

実を結ぶ枝

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりぞぎ、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。」(ヨハネ 15:1, 2)

救い主は……弟子としてのしるしを指し示された。「あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう」(ヨハネ 5:8)。信仰によって生ける神にすがり、愛と優しさと親切と同情と愛情とを呼吸する経験を維持しなければならない。これらの品性の特質は、主イエス・キリストがわたしたちに結んでほしいと望んでおられる実であり、またわたしたちには、高めることもでき、満たすこともできる救い主がおられるという証拠として世の前に示してほしいと望んでおられる実である。……わたしたちは損失をこうむる側にいる必要はない。なぜなら、すべてにおいてこのお方がわたしたちの十分な満たしだからである。

わたしたちが必要としているのは、イエス・キリストの臨在である。主の真理がわたしたちの心を照らし、わたしたちのすべての人生活動にいきわたるようにと望む。これによってわたしたちが真のぶどうの木の枝であるか否かが決まる。もしわたしたちが実を結ぶ枝であるならば、もっと多くの実を結ぶことができるように、偉大なる農夫がわたしたちを刈り込むことを予期することができる。不必要なものや、クリスチャン生活においてわたしたちの成長を妨げるものはことごとく、取り除かねばならない。(原稿 37, 1908 年)

清めの働きがなされると、わたしたちはしばしば主がわたしたちに反対しておられるかのように感じる。そう感じる代りに、わたしたちは自らを省みて、何かやり残していることはないか、あるいは神との正しい関係に入る前に自分の生活から取り除かなければならないものがないかどうかを調べなければならない。……

わたしたちは真のぶどうの木の生きた枝となり、クリスチャンの品性という実を結ぶために日々贖い主にしっかりとすがっていなければならない。……キリストがそのご生涯において実践されたように、喜んで自己否定と自己犠牲を実践するならば、わたしたちは神の栄光のために実を結ぶようになる。(原稿 19, 1909 年)

ご自分に従う者たち、神と協力する者たちが、実を結ぶためのあらゆる資源を豊かに受け、またご自分のもとで働く者として、豊かに与えるのをごらんになることは、救い主の喜びである。キリストはご自分の結ばれた実によってみ父に栄光を帰せられた。そして、キリストに本当に従う者たちの生活も同じ結果をうむのである。受け入れ、また与えることによって、主の働き人は多くの実を結ぶようになる。(手紙 42, 1900 年)

キリストのうちにやどる

「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながって
いよう。枝がぶどうの木につながっていなければ自分だけでは実を結ぶことがで
きないように、あなたがたもわたしにつながっていなければ実を結ぶことができな
い。」(ヨハネ 15:4)

切り取られて、葉もなく、見るからに命がなさそうな枝が、生きた幹につぎ木
され、繊維と繊維、脈と脈がつながって、ぶどうの木から命と力を吸い上げ、つ
いには芽を出し、花を咲かせ、実をみのらせるように、罪人の場合も同様である。
悔い改めと信仰によって、キリストにつながるとき、神性にあずかる者となり、言
葉や行為において聖潔の生涯という実を結ぶことができる。

イエスは「自分のうちに生命を持」っておられ、その命をおしみなく罪ととが
に死んでいる魂に与えようとしておられる。しかり、主はご自分の純潔と名誉と
賞賛とを彼らと分かち合われるのである。……生気のない枝が、生きた木につが
れると、ぶどうの木の一部となる。枝は、木に結合している限り、生きている。
同じようにクリスチャンは、キリストとの結合という徳によって生きる。罪深い人性
が、聖なる神性につながれた。信じる魂は、キリストのうちにやどり、このお方
と一つになる。この世の生涯の関係において、人が人と密接に結ばれているとき、
その好みが似てきて、同じものを愛するようになる。同様にキリストにやどる者は、
主が愛されるものを愛するようになる。彼らは神の戒めを聖なるものとして大切に
し、それらに服従するのである。……

幹から養分を得るぶどうの枝は、繁茂し、実を結ぶ。その豊かなかぐわしい
房は、その枝が生きた木に結合していることをあかししている。同じようにクリス
チャンは、キリストにやどっているとき、実を結ぶ。品性と生活のうちに、ぶどう
の豊かな房のように聖霊の尊い恵み—愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、信
仰、柔和、自制があらわれるのである。……

生きたぶどうの木の、実を結ぶ者となる決心をしなさい。つながれた若枝は
親木から命と力を受けることによるのみ栄えることができる。だから、あなたを
さらにキリストと密接にむすびつけるような機会を活用しなさい。主と一つになる
のは、このお方を信じ、このお方を愛し、このお方にならい、このお方に全くよ
り頼むことによってである。そして、あなたを通して、主の命と品性が世にあらわ
されるのである。(ビュー・アンド・ワールド 1883年9月11日)

5月20日

わたしの力の源

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。」(ヨハネ 15:5)

わたしたちは有限であるが、無限のお方と緊密なつながりを持つことができるようにすばらしい取り計らいがなされた。……有限な者は最善を尽くしたところで、ほんのわずかなことしかできない。しかしキリストが人類を通して働かれるとき、すばらしい結果がなしとげられるのである。

わたしはあまりにもわずかなことしかできないと考えるとき、苦痛を伴う。人間の限られた範囲における能力は、キリストの「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」とのみことばを強く感じさせる。多くの者はすぐれた能力を授けられていながら、それらを用いないが、それは神と生きたつながりがないためである。……わたしの乏しい知識と、貧弱な力は、わたしをキリストのもとへ追いやる。心の言葉は、「ああ神よ、わたしは何一つできません。わたしの無力な魂をあなたに、わが救い主イエス・キリストにお委ねします。わたしの心にあなたの恵みを注ぎこんでください。思いをわたしの弱さからあなたの全能の力へとひきつけてください。わたしの無知からあなたの永遠の知恵へ、わたしのもろさからあなたの永続的な力へと、わたしの思いを向けてください。偉大な贖いの計画を正しく見させてください。キリストがわたしにとってどういう存在かということ、またわたしの心と魂と思いと力とは価をもって買い取られたということを見させ、理解させてください。キリストは、わたしが他の人々に与えることができるようにと、与えてくださいました。わたしの魂を持ち上げてください。わたしの思いを強め、啓発し、それによってイエス・キリストのうちにあらわされたままの神のご品性をもっとはつきり悟ることができるように、また神性にあずかることがわたしの特権であることをわかるようにしてください」となる。

偉大にして永遠なる神の力は、わたしの思いを畏敬の念で満ちし、ときには恐れさえ起させる。……わたしが心から、いつくしみと同情と愛に満ちたイエスをながめ、主なる神をおおぎ、このお方を父という親しみある名で呼ぶことができますように。

誘惑に対するわたしの魂自身のすさまじい苦闘も、また神を知りそしてイエス・キリストを個人的な救い主として知ること、そしてその愛のうちにある確証と平和と憩いを持つことを願う熱烈なあこがれも、わたしが毎日義の太陽がわたしを照らすことのできる場所にいたいと願うようにさせるのである。(原稿 41、1890年)

確証を喜ぶ

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば与えられるであろう。」
(ヨハネ 15:7)

キリストのうちに宿る者に与えられる特権は尊いものである。……キリストの思いが主に忠実に従う者のうちに宿る。彼らの願望は、主のみ旨と一致する。そして、彼らの願いは主の霊によって綴られたものである。彼らは祈りの答を与えられる。なぜなら、彼らは神が喜んで与えようとしておられる祝福を求めるからである。

しかし、神がお答えにならない幾千という祈りが日ごとにささげられている。それは信仰のない祈りである。「神に来る者は、神のいますことと、ご自分を求める者に報いて下さることを、必ず信じるはずだからである」(ヘブル 11:6)。偶像を大事にする心から出る利己的な祈りがある。……また人生の重荷やわずらいを軽くしてくれる恵みを、謙遜に求めるかわりに、それらのためにつぶやく気短にいらだった祈りもある。このような祈りをささげる者はキリストのうちに宿ってはいない。彼らは、自分たちの意志を神の意志に服従させていない。彼らが約束の条件に従わないので、その約束は成就しないのである。

イエスのうちに宿る者には、主のみ旨を行うことを愛するがゆえに、神が自分たちの祈りを聞いて下さるという確証がある。彼らは形式的な言葉だけの祈りをささげたりはせず、まじめに心低くやさしい父親のところに来る子供のような確信をもって、悲しみと恐れと罪の体験をすっかり主に打ち明け、彼らの欠乏をイエスの名によって述べる。彼らはゆるしの愛とささえの恵みの確証をもって喜びつつ、主のみ前を立ち去るのである。(ビュー・アノド・ハルト 1883年9月11日)

イエスがあなたのかたわらにおられると自覚するとき、あなたには快活さ、望み、勇気、喜びがある。……決して、どんなことがあってもイエスから離れてはならない。このお方は決してわたしたちから離れるようなことをなさらない。カルバリーの十字架によって、イエスは、わたしたちに対するご自分の深い愛の証拠を与えてくださった。イエスはわたしたちが自分自身の有限な力で戦うがままに、わたしたちを取り残されることはない。「わたしは、決してあなたを離れず、あなたを捨てない」とこのお方は仰せられる(ヘブル 13:5)。……わたしたちが主を悲しませるときでさえ、主はわたしたちをお捨てにならない。主はなおもわたしたちをしっかりとつかんでいてくださる。あなたの心がイエスの愛によって生気を与えられ、このお方の栄光のための熱烈な活動となるように。(手紙 5B、1891年)

5月22日

地上において最も幸福な民

「わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。」(ヨハネ 15:11)

わたしたちはクリスチャンとして、あたかもわたしたちには救い主も望みもないかのように、浮かぬ顔をしてため息をつきながら歩くようにとは要求されていない。これは神に栄光を帰することにはならない。主はわたしたちが快活であるようにと望んでおられる。このお方はわたしたちが主のみ名への讚美に満ち溢れていることを望んでおられる。また、わたしたちが顔には光を、心には喜びを携えていくようにと望んでおられるのである。わたしたちは、この世が与えるいかなる喜びよりも、はるかにすぐれた望みを持っているのであり、その事実は明らかにされるべきである。

わたしたちの喜びが満たされていない、すなわち何一つ欠けることなく満たされてはいないのは、なぜだろうか。わたしたちには、イエスが自分たちの救い主であり、わたしたちがこの方から自由を得ることができるという確証がある。このお方がわたしたちのためにみ言葉のうちに豊かに備えてくださったものに自由にあずかることができる。わたしたちはみ言葉どおりにこのお方に信頼し、このお方を信じ、主がわたしたちにお命じになったとおりになす恵みと力を下さると知ることができる。……わたしたちはたえず主のご臨在の喜びを求めることができる。わたしたちは四六時中ひざまずいて祈る必要はないが、しかし道を歩いている時も、日常の義務を行っている時も主の恵みを絶えず求めていることができる。わたしたちは絶えずキリストに思いを向けていることができ、主は自由にご自分の恵みをわたしたちに与えて下さるのである。……

キリストの喜びは純粹でまじりけのない快活なものである。それは安っぽい陽気さでもなく、むなしい言葉や軽々しい行動に導くものでもない。わたしたちは主の喜びを持たねばならない。そして、主の最大の喜びは、人が真理に従っているのをご覧になることであつた。……次のように言って、神に嘆願しなさい。「わたしは完全に明け渡します。わたし自身をあなたにおささげします」そして喜びなさい。神のみ言葉はあなたのうちにあつて、あなたの品性を純粹にし、清める。神はその子らが顔に心配と悲しみをあらわして生活することを望まれない。神は神性にあずかるわたしたちが一人ひとり、その顔に神のみ顔の美しい表情をあらわすように望んでおられる。なぜなら、わたしたちはこの世の腐敗から逃れる力を持っているからである。……

キリストが死なれたからといって、わたしたちが孤児の群れとして取り残されることはない。……わたしたちは勝利に勝利を重ね、地上にあつて最も幸福な民となるのである。(原稿 37、1908 年)

イエスとの友情

「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」(ヨハネ 15:14)

クリスチャンの品性と道は世俗のそれとは対照的である。クリスチャンは、世の娯楽やさまざまなお祭り騒ぎの場を楽しみを見出すことができない。より高く、よりきよい魅力が愛情を引きつける。クリスチャンは自分たちの服従によって、神の友であることを示す。「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である」とキリストは仰せになる。「……もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかしあなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである」。

キリストはあなたの岩、また砦である。正しい者は主のみ名の中に走りこんで安全なのである。……主のご要求の義と卓越さは、世によって理解されず、彼らはキリストの宗教を束縛のくびき、また彼らの自由の放棄だと考える。神の戒めの一つ一つは、わたしたちの弱い力を無限なる力に結合させることにより、賢く、豊かに、そして高尚になるようにとのご命令である。わたしたちがキリストの足跡に従っている間は、決して恥じ入る必要がない。なぜなら一つとして良心に責められないからである。主の奉仕はいつも道理にかなったものであり、主の働きはつねに誉れあり、栄光あるものである。わたしたちが世の楽しみを選び、世の習慣に習うことを願う友人たち、またわたしたちを頑固者だとみなす友人たちには、わたしたちに対して要求する権利はないのであり、キリストの要求とは比較にならない。……

神が人間を量られるときの価値は、その人のキリストとの一致による。なぜなら、神だけがキリストの義を通して、人間を道徳的価値のはかりにひきあげることがおできになるからである。この世の名誉や偉大さは、創造主が人間にお与えになった価値にすぎない。彼らの今の知恵は愚かさであり、彼らの力は弱さである。

神が高く評価なさるものを尊重しよう。本当に品性を高めるものは、キリストを通してのみ見出される。わたしたちの救い主はご自分に、最上にして最も聖なる心の愛情を主にささげらる者にご自分の義を与えて下さる。わたしたちの価値は神に対する忠誠に比例しているのである。(手紙 9、1873 年)

5月24日

イエスの最高の贈り物

「しかし、わたしはほんとうのことをあなたがたに言うが、わたしが去って行くことは、あなたがたの益になるのだ。わたしが去って行かなければ、あなたがたのところに助け主はこないであろう。もし行けば、彼をあなたがたにつかわそう。」(ヨハネ 16:7 欽定訳)

キリストは昇天の後に、ご自身に代わる慰め主という最高の賜物を、ご自分の教会につかわそうと宣言された。この慰め主は聖霊、すなわちこのお方の命、教会の力、世の光また命である。……

この御霊という贈り物を通して、イエスは天が与える最高のものを人に下さった。……世の救い主がなされたことを効果あるものにするのは、聖霊である。心を純潔にするのは、聖霊である。聖霊を通して、信徒は神性にあずかるものとなる。キリストは、すべての先天的あるいは後天的悪への傾向に打ち勝つ神の力として、また教会にご自身の品性を印象づけるためにご自分の聖霊を下された。……聖霊に内住していただくことは、神のすべてのむすこ娘の特権である。(ビュー・アポド・ハルド 1904年5月19日)

すべての教会員は神の前にひざまずき、聖霊が与えられるように熱心に祈ろう。「主よ、わたしの信仰を増し加えて下さい。あなたのみ言葉を悟らせてください。なぜならみ言葉が開けると光を放つからです。あなたのご臨在によってわたしを活気づけて下さい。わたしの心を聖霊で満たして下さい」と声をあげなさい。……

人が聖霊に満たされると、彼のテストや試練が厳しければ厳しいほど、彼がキリストの代表者であることをますますはっきりとあかしするようになる。魂に宿る平安は表情に表われる。言葉と行動は救い主の愛をあらわしている。……自己は放棄されている。イエスのみ名が言葉にも行動にもすべてにしろされる。

わたしたちが聖霊の祝福について語っても、わたしたち自身がそれを受ける準備ができていなければ、わたしたちの働きは何の役に立つだろうか。わたしたちは、キリストのうちにおける男女の高さに到達するよう全力をあげて努力しているだろうか。わたしたちは主の満ち満ちた徳を求め、主のご品性の完全さというわたしたちの前におかれた目標をめざして走っているだろうか。主の民がこの目標に到達するとき、その額に印を押される。聖霊に満たされて彼らはキリストのうちに完全になり、記録天使は「すべてが終った」と宣言する。(ビュー・アポド・ハルド 1902年6月10日)

聖霊は条件つきで与えられる

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとするれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さないことがあるうか。」(ルカ 11:13)

キリストは教会に聖霊の約束をされた。その約束は最初の弟子たちのものであると同じようにわたしたちのものである。しかし他の約束と同じようにそれは条件つきで与えられている。主の約束を信じ、それを公言する者が多くいる。彼らはキリストについて語り、聖霊について語るが、益を受けていない。彼らは聖なるお方に導かれ、支配されるために魂を明け渡そうとしない。わたしたちは聖霊を用いることはできない。聖霊がわたしたちをお用いになるのである。聖霊を通して神はご自分の民のうちに「働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせ」てくださるのである(ピリピ 2:13)。しかし多くの者はそれに服従しない。彼らは自分で自分自身を支配したいのである。これが、彼らが天よりの贈り物を受けることができない理由である。へりくだって神を待ち望む者たち、神の導きと恵みを待ち望む者たちにおのみ、聖霊は与えられる。……

自己を捨て、心のうちに聖霊が働くために場所をつくり、全く神に献身した生活を送る者の有用さには限りがない。……もし神の民が障害物を取り除くならば、主は人間という水路を通して豊かな救いの水の流れを注がれるのである。……

聖霊は、あらゆる危急のときに、肉親たちの不親切や世の憎しみのただ中であって、また自らの不完全さとまちがいを自覚して、努力し格闘する魂を支えるための力を与えてくださる。神と人間の努力の結合、すなわちあらゆる力の源である神と最初から最後まで絶えず密接につながっていることが、絶対的に必要である。(ビュー・アソド・ハルド 1904年5月19日)

失われた人類の救いのために自らをむなしくされたイエスに、聖霊は無制限に与えられた。同じように自らの心を聖霊の内住のためにすっかり明け渡すとき、キリストに従うすべての者にも聖霊は与えられる。わたしたちの主ご自身も「聖霊に満たされよ」とお命じになった。そして、この命令はまた同時に成就するという約束でもある。キリストにあって「満ちみちているいっさい」のものが宿り、「あなたがたは、キリストにあって、満たされている」ことは、神のよしとされるところである(コロサイ 2:9、10 欽定訳)。(ビュー・アソド・ハルド 1908年11月5日)

5月26日

キリストの代理者

「彼がきたら、罪と義とさばきについて、世の人の目を開くであろう。」(ヨハネ 16:8 欽定訳)

慰め主が来てあなたの罪と義とさばきについてあなたの目を開くとき、神の霊に抵抗することがないように気をつけなさい。……それがあなたに明らかにすることを喜んで認めなさい。自分自身の意志とあなたにとって特別な長い間の偶像的な習慣を捨てなさい。真理の原則を受け入れることができるためである。(レビュー・アンド・ハラルド 1892年4月12日)

無限の犠牲と苦しみのおもむきで、キリストはわたしたちのためにクリスチャンの戦いに成功するのに必要なものをすべて備えて下さった。聖霊は、人が勝利することができるように力を与えて下さる。サタンの政府が征服されるのは、御霊という代理者を通してである。罪を悟らせるのも、また人間の同意があれば、心から罪を追い出すのも聖霊の働きである。そのとき、思いは新しい律法—王家の自由の律法—の下におかれるのである。(レビュー・アンド・ハラルド 1904年5月19日)

主イエスは聖霊を通して活動される。なぜなら、それはこのお方の代理者であられるからである。聖霊を通して、主は魂のうちに霊的命を吹き込まれ、善のためにそのエネルギーを燃え立たせ、道徳的な汚れより清め、そしてその魂を主の王国にふさわしいものとされる。イエスにはあたるべき多大な祝福があり、人々に分け与えるべき豊かな賜物がある。主は無数の知恵と力をもったすばらしい相談役である。そして、もしわたしたちが主の霊の力を認め、それによってかたちづくられるために服するならば、わたしたちは主にあつて完全なものとなるのである。何というすばらしいことであろうか。「キリストにこそ、満ちみちているいっさいの神の徳が、かたちをとって宿っており、そしてあなたがたは、キリストにあつて、完全なのである。」(コロサイ 2:9、10 欽定訳)。

人の心が神のみ霊にかたちづくられるために服するまで、それは決して幸福を知ることがない。聖霊は新たにされた魂を、模範であられるイエス・キリストのみかたちに従つてかたちづくる。聖霊の感化を通して、神に対する敵意は信仰と愛にかわり、誇りは謙遜にかわる。魂は真理の美しさを認識し、キリストは品性の卓越さと完全さによって誉れをお受けになる。これらの変化が起つたとき、天使たちは喜びの歌の声をあげ、神とキリストは聖なるみかたちにかたどられた魂を喜ばれるのである。(レビュー・アンド・ハラルド 1896年8月25日)

聖霊の支配に服する

「なぜなら、もし、肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬ外はないからである。しかし、霊によってからだの働きを殺すなら、あなたがたは生きるであろう。すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。」(ローマ 8:13, 14)

人間の意志は攻撃的であり、万事を自分の目的にねじまげようと奮闘する。もし意志が神の側、正しい側に加わるならば、み霊の実が彼らの生活にあらわれるようになる。そして、神は善を行うすべての人のために栄光と名誉と平安を定めてくださったのである。

サタンが意志をかたちづくることを許されるとき、彼は自分の目的を達成するためにそれを用いる。……サタンは悪い傾向をかきたて、汚れた情欲と野望を目覚めさせる。彼は「わたしはこのすべての力も、これらの栄誉も富も、また罪深い楽しみも、あなたに与えよう」という。しかし、サタンの条件は、廉潔を捨て、良心を鈍くすることである。このようにサタンは人間の能力を低下させ、彼らを罪のとりこにする。(ビュー・アソド・ハルト 1896年8月25日)

しかし、神はわたしたちが罪と義とさばきとについて目が開かれるように、絶えずご自分の聖霊を通してわたしたちの心に印象づけようとしておられる。わたしたちは神の側に自分の意志をおくことができる。そして、このお方の力と恵みのうちに敵の誘惑に抵抗することができるのである。神の御霊の感化力に服するとき、わたしたちの良心は繊細で敏感になり、今まで軽く考えて見過ごしにしていた罪が、非常に大きい罪に思われてくる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1893年9月4日)

神は人に悪の力に反対せよと要求しておられる。「だから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従わせることをせず、また、あなたがたの肢体を不義の武器として罪にささげてはならない。むしろ、死人の中から生かされた者として、自分自身を神にささげ、自分の肢体を義の武器として神にささげるがよい。」(ローマ 6:12, 13)。……

この不義に対する義の戦いにおいては、わたしたちは聖なる助けがあつてこそはじめて成功することができる。わたしたちの有限な意志は、無限なるお方の意志に服従しなければならぬ。人間の意志は神の意志と融合しなければならぬ。これによって聖霊がわたしたちの助けとして与えられる。そして、すべての戦いは、神が買い取られた所有物を取り戻し、魂のうちに神のみ姿を回復するものとなるのである。(ビュー・アソド・ハルト 1896年8月25日)

5月28日

キリストの恵みをあらわすもの

「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くところを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。」(ヨハネ 16:13)

慰め主については、「あらゆる真理に導いてくれるであろう」と記されている。聖霊を通して、キリストはご自分が聖なる人々に靈感を与えて真理に関してお書かせになったことを、ご自分を信じる人々にさらに明らかにしてください。(ビュー・アード・ハルド 1892年4月12日)

キリストは聖霊について「御霊はわたしに栄光を得させるであろう」と言われた(ヨハネ 16:14)。キリストがみ父の愛をあらわしてみ父に栄光を帰せられたように、聖霊はキリストの恵みの富を世に示して、キリストに栄光を帰せられるのであった。神のみ姿そのものが人類のうちに再現されねばならない。神の栄誉とキリストの栄誉が、神の民の品性の完全さにかかわっているのである。……

聖霊は、心に贖いの計画の尊い真理をしばしば、また生き生きと思い起こさせることによって、わたしたちのうちに働かれる。もし神のこゝろを取り上げてわたしたちに示してください聖霊がおられなければ、わたしたちはこれらの真理を忘れてしまい、それによってわたしたちのための神の豊かな約束は、その効力を失うことであろう。……聖霊はわたしたちの暗黒を照らし、わたしたちの無知に教え、多種多様の必要においてわたしたちを助けてください。しかし思いは絶えず神を求めなければならない。もし世俗が入ることを許すならば、またもし祈りたいという願いもなく、力と知恵の源である神と交わりたいとの願いもなければ、聖霊はわたしたちのうちに宿られないのである。信じない者は、豊かな恵みの賜物を受けることができない。それは彼らを、救いに賢く、忍耐深く寛大にし、また天の働きを認めて感謝するのに早く、またサタンの欺きを識別するのに早く、罪に抵抗するのに強い者とする賜物なのである。(ビュー・アード・ハルド 1904年5月19日)

キリストの宗教は罪のゆるし以上のものを意味する。それは、罪が取り除かれ、そこにできた空間がみ霊によって満たされることを意味する。それは心が聖なる光によって照らされ、ここからは自己がすっかりなくなり、キリストのご臨在に満たされることを意味する。この働きが教会員のためになされるとき、教会は生きた働く教会になるであろう。(ビュー・アード・ハルド 1902年6月10日)

御霊の力の時

「ただ、聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう。」(使徒行伝 1:8)

わたしたちはペンテコステの日に弟子たちが祈ったように、聖霊の降下を熱心に祈るべきである。もしその当時、彼らにそれが必要であったとすれば、わたしたちは今日それをもっと必要としている。あらゆるかたちの偽りの教理や異端、欺瞞などが人の心を誤った方向に導いている。もし聖霊の助けがなければ、神の真理を提示するわたしたちの努力は無駄になる。

わたしたちは聖霊の力の時代に生きている。それは人間を通して世界に自ら普及しようとしておられる。このようにしてその影響力は世において増していくのである。なぜなら、だれでも命の水を飲む者は、その水がその人のうちで「泉となり、永遠の命に至る水」となるからである(ヨハネ 4:14)。そして、その祝福は彼のうちに閉じこめられることなく、他の人と分かち合うのである。……

悪の力に勝利する力であられる聖霊を拒むことは、他のすべての罪よりもはるかに重い罪である。なぜなら、それはわたしたちの力の源—キリストと、このお方との交わり—から、わたしたちを切り離すことを意味するからである。……

善と悪の戦いは、救い主ご在世当時より下火になっているわけではない。天国への道はその時と少しも変わらず、なめらかではない。わたしたちのすべての罪が取り除かれねばならない。わたしたちの宗教生活を妨げているあらゆる大事な放縦を切り捨てなければならない。右の目であっても、右の手であっても、もしそれがつまづかせるならば、それを犠牲にしなければならない。わたしたちは喜んで自分自身の知恵を捨て、幼子のように天国を受けるだろうか。わたしたちは喜んで自分の義から離れているだろうか。人間の賞賛を喜んで犠牲にしているだろうか。永遠の命の賞与には無限の価値がある。わたしたちは喜んで聖霊の助けを歓迎し、それと協力し、到達すべき目標の価値にふさわしい努力をはらい、また犠牲をささげているであろうか。(ビュー・アソ・ワールド 1896年8月25日)

人の心は聖霊の住居になることができる。人知では測り知ることのできないキリストの平安が、あなたの魂にとどまることができる。そうするならば、主の恵みの変化させる力があなたの生活に働いて、あなたを栄光の国にふさわしい者とするのである。(クリスチャンの奉仕 217)

5月30日

受け入れて下さるという誓い

「イエスはバプテスマを受けるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはどのように自分の上に乗ってくるのを、ごらんになった。また天から声があって言った、『これはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である。』」（マタイ 3:16, 17）

この光景はわたしたちにとって何を意味するであろうか。わたしたちは主のバプテスマの物語をいかに軽率に取り扱っていることだろう。このもっとも重要な意義を悟りもせず、キリストが人間のためにみ父に受け入れられたことも理解していない。イエスがヨルダンの岸で頭をたれてその祈りをささげられたとき、人類は、ご自分の神性を人性でおおわれたお方によって、み父の前に差し出されたのである。イエスは人間のためにご自身をみ父におささげになった。それは、罪のために神から分離してきた者たちが、神なる嘆願者の功績を通して、神に連れ戻されることができたためであった。……

失われた人類のためのキリストの祈りは、サタンが人と神の間に投げかけた影をつらぬいて道を切り開き、栄光のみ座そのものに通じるはっきりとした交信の道を残したのである。……

キリストの嘆願にこたえて、神の御声が聞かれた。これは罪人にむかってその祈りがみ父のみ座に到達することを告げていた。聖霊はその力と恵みを求める者に与えられる。そして、わたしたちが神に謁見するときに、わたしたちの弱さを助けてくださる。わたしたちの嘆願に天は開かれる。そしてわたしたちは「あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づ」くようにと招かれているのである（ヘブル 4:16）。（SDA バイブル・コメント [E・G・初巻・コメント] 5 巻 1078）

わたしたちはことごとく罪と弱さがあっても、価値なきものとして捨てられることはない。「このおかたはわたしたちが愛されるお方のうちに受け入れられるようにしてくださった」のである（エペソ 1:6 欽定訳）。キリストにやどった栄光は、わたしたちに対する神の愛の誓いである。それは祈りの力を表わしている。すなわち、人間の声かどのようにして神の耳に達するか、わたしたちの嘆願がどのようにして天に受け入れられるかを教えている。開かれた門から救い主の頭に降り注いだ光は、わたしたちが誘惑に抵抗するための助けを祈り求めるとき、わたしたちにも降り注ぐのである。イエスに語られた声は、すべての信じる魂に向かって「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である」と告げる。（SDA バイブル・コメント [E・G・初巻・コメント] 5 巻 1079）

三人の力強い助け主

「すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。」(ローマ 6:4)

イエスは、いのちと信心とにかかわるすべてのことにおいてわたしたちの模範であられた。イエスに来る者がバプテスマを受けねばならないように、イエスはヨルダンでバプテスマを受けられた。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 5 巻 1077)

キリストはバプテスマを霊的王国に入る条件とされた。このバプテスマの儀式を受ける者は、それによって彼らが世俗を捨て、王家の一員となったことを公に宣言するのである。……このようにする者は、彼らの新しい関係においてすべてこの世に関するものを第二としなければならない。彼らは、公にもはや誇りと自己放縦に生活しないことを宣言したのである。……彼らはおごそかな契約によって、主のために生きる義務がある。彼らは委託された能力をすべて主のために用いねばならない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 6 巻 1075)

わたしたちがバプテスマの厳粛な式をうけるとき、わたしたちは天使と人に対して、自分たちが古い罪から清められたこと、また今後、世に対して死んだものとして、「上にあるものを求め」ることを証するのである(コロサイ 3:1)。バプテスマの誓いを忘れないようにしましょう。天の三人の最高の権威者たち—御父と御子と御霊—のご臨在の前に、わたしたちは自ら、……「わたしはよみがえりであり命である」(ヨハネ 11:25) と宣言されたお方のみ旨を行うという誓いをなしたのである。キリストはすべての悔い改めた罪人を許される。そして許された者が、バプテスマのときに、水の墓からよみがえるとき、キリストと共に神のうちにその命を隠された新しい被造物として宣言される。わたしたちは、自分の古い罪から清められることが自分たちの最高の特権であることを、いつも覚えていよう。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 5 月 26 日)

クリスチャンがバプテスマの誓約をするとき、神の助けが約束される。御父と御子と御霊が彼のために働く準備をして待っておられる。神は、彼が勝利者になるため、彼が意のままに用いることのできる天の資源を備えてくださった。彼自身の力は小さいが、神は全能者であられ、しかも神が彼の助け主であられる。日ごとに彼は自分の欠乏を恵みのみ座に訴えるのである。信仰と信頼によって、また備えられた資源を利用することによって、彼は勝ち得て余りがあるのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 2 月 18 日)

6月1日

夏の時に神と共にいる

「見よ、冬は過ぎ、雨もやんで、すでに去り、もろもろの花は地にあらわれ、鳥のさえずる時がきた。山ぼとの声がわれわれの地に聞える。」(雅歌 2:11, 12)

このうわしい朝に自然界はすべて新鮮に美しく見える。大地はその緑の夏の衣をまとして、エデンを思わせるうるわしきでほほえんでいる。

わたしは夏の楽しさは、長く寒い冬の何ヶ月かの記憶によっていつそう大きくなるような気がする。その一方で、夏の希望が冬の時期をより快活に忍ぶ助けとなるのである。もしわたしたちが、氷の王のはりめぐらす不毛と荒涼に思いがふけることを許すならば、わたしたちは非常に不幸になるだろう。しかし、それより賢く、わたしたちは来たるべき春、すなわち鳥を連れ戻し、眠っていた草花を目覚めさせ、大地をその緑の衣でおおい、大気には光と芳香と歌があふれる春を期待して望み見るのである。

クリスチャンのこの世における寄留は、まさしく長い寒い冬にたとえることができる。ここでわたしたちは、試練や悲しみや失望を経験するが、わたしたちはこれらのものに思いがふけるのを許すべきではない。それよりもむしろ、希望と信仰をもってきたるべき夏、あたり一面が光と喜びに満ち、すべてが平安と愛であるエデンの家郷にわたしたちが迎え入れられる夏を望み見ようではないか。

もしクリスチャンがこの世において苦悩の嵐を一度も経験したことがなかったとすれば、またその心が一度も失望に凍えたり、恐れに打ちひしがれたりしたことがなければ、彼はいかに天国を感謝すべきかほとんど知らないことであろう。わたしたちはしばしば疲れて悲しい思いをし、心に痛みを覚えるかもしれないが、気落ちしないのである。冬がいつまでも続くことはない。平和と喜びと永遠の楽しみの夏がまもなく来る。そのときキリストはわたしたちと共に住み、わたしたちを命の水の泉へ導き、わたしたちの目から涙をことごとくぬぐい去ってくださるのである。(手紙 13、1875 年)

何ごとにも、……あなたが永遠のための完全な働きを成し遂げるのを妨げられてはならない。……そこには、いてつく風も冬の冷たさもなく、永遠の夏しかない。そこには、知性のための光、また永続する愛がある。健康と不死、またすべての機能のための活力とがある。どんな悲しみもどんな嘆きも、永遠にそこから閉め出されているのである。(手紙 4、1885 年)

新しい心のしるし

「わたしは新しい心をあなたがたに与え、新しい霊をあなたがたの内に授け、あなたがたの肉から、石の心を除いて、肉の心を与える。」(エゼキエル 36:26)

神の書にしるされた最も熱心な祈りの一つは、ダビデが「神よ、わたしのために清い心をつく」ってください(詩篇 51:10)、と嘆願したときのものである。そのような祈りに対する神の答えは、あなたに新しい心を与えよう、である。これはだれ一人として有限な人間はなすことのできない働きである。男も女も最初から始めねばならない。すなわち、真のクリスチャンの経験をこの上なく熱心に求めることである。彼らは聖霊の創造力を感じなければならない。彼らは、新しい心、すなわち天の恵みによって柔軟で敏感に保たれる新しい心を受けねばならない。利己的な精神は魂からきよめられねばならない。彼らは熱心に働き、謙遜な心をもって、各自が導きと励ましを求めてイエスを仰ぐべきである。そのとき、建物はお互にうまく組み合わされ、主にある聖なる宮にまで成長するのである。(SDA パブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1165)

青年は特にこの「新しい心」という言葉につまずく。彼らはその意味を知らない。彼らは自分たちの感情のうちに何か特別な変化が起るのを待っている。彼らはこれを改心と呼ぶ。この誤りのために、「新しく生まれなければならない」という言葉の意味を理解せず(ヨハネ 3:7)、幾千もの人々がつまづいてきたのである。

サタンは人々に、気分的に恍惚をあげわったのは、自分たちが改心したからだ、と思わせようとしている。しかし彼らの経験は変わらない。その行動は以前と同様である。彼らの生活は良い実を結んでいない。彼らはしばしば長い祈りをささげ、いつもあの時もこの時も自分はこのように感じたと言っている。しかし彼らは新しい生活をしていない。彼らは欺かれている。彼らの経験は感情以上には深くない。彼らは砂の上に家を建てているので、逆風が吹くと、家は一掃されてしまう。……

イエスが新しい心について語られたとき、このお方は心と生活とその人全体とをさして言われた。心が変わるとは、世に対しては愛情を引込め、それらをキリストにしっかりと結びつけることである。新しい心を持つとは、新しい思い、新しい目的、新しい動機を持つことである。新しい心のしるしとは何であろうか。—それは変化した生活である。(SDA パブル・コメンタリ [E・G・ホイト・コメント] 4 巻 1164, 1165)

6月3日

かたくなな心に警戒せよ

「主はわれらの神であり、われらはその牧の民、そのみ手の羊である。どうか、あなたがたは、きょう、そのみ声を聞くように。あなたがたは、メリバにいた時のように、また荒野のマッサにいた日のように、心をかたくなにはならない。」(詩篇 95:7, 8)

だれであつても世俗とプライドのために神から与えられた自分の力を一度でも用いるなら、それはとりもなおさず、自分自身を敵の側に置くということである。……罪を繰り返すたびに、それは彼の抵抗力を弱め、彼の目を盲目にし、確信を失わせてしまう。……

わたしたちの過ちが第二の天性となってしまう前に、それらを正す機会を得ることができるように、主はわたしたちに警告と勧告と忠告とを送ってくださる。しかし、もしわたしたちが正されることを拒むならば、わたしたち自身のとる行動方針の傾向に逆らつて働くために神が妨害されることはない。このお方はまかれた種が芽を出さず、実をみのらせないような奇跡は行なわれぬ。聖なる真理に対する不信心なずうずうしさにぶい無関心をあらわす人は、自分自身がまたその収穫を刈り取っているにすぎない。このような経験をしている者が大勢いる。彼らは、かつては自分たちの魂の奥底をふるいたせた真理を冷淡な無関心をもって聞く。彼らは真理に対する無視、無関心、抵抗をまくが、彼らの刈り取る収穫も同様なのである。氷のような冷たさ、鉄のような堅さ、岩のように無感覚で無感動な性質—これらはみな多くのクリスチャンと自称する者の品性にみられるのである。主がパロの心をかたくなにされたというのは、こういうことであつた。神は、モーセを通して、エジプトの王に語られ、彼に神の力の最もはっきりした証拠を示された。しかし、王は自分を悔い改めに導いたはずの光をあくまでも拒んだ。神が反逆の王の心をかたくなにするために超自然的な力を送られたのではない。そうではなく、パロが真理に抵抗したとき、聖霊が取り去られた。そして、彼は自分の選んだ暗黒と不信のまま取り残されたのであつた。聖霊の感化力をあくまでも拒みつづけることによって、人は自ら神との関係を断つ。神にはこれ以上彼らの思いを啓発するための強力な手段はない。不信仰の彼らの心を動かす神のご意志の啓示はない。

イエスの足もとにすわり、このお方より学ぶ者の道の特徴は、断固たる原則である。(ビュー・アソド・ヘラルド 1882年6月20日)

心を守る働き

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

勤勉に心を守ることは、恵みにおける健全な成長のために不可欠である。生まれつきの状態では、心は汚れた思いと罪深い情欲のすまいである。キリストに征服されるとき、心は聖霊によってすべての汚れから清められねばならない。この働きは、個々人の同意なしにはできない。

魂が清められたとき、それが汚れないように保つのは、クリスチャンの義務である。多くの者はキリストの宗教が、日々の罪を捨てること、また魂を奴隷のくびきのうちにとらえていた習慣から自由になることを要求してはいないと考えているかのようである。彼らは良心にとがめられることをいくらかは放棄するが、日常生活においてキリストをあらわさない。彼らは家庭にキリストに似た品性を持ち込まない。彼らは言葉を選ぶにも、思いやり深い注意を示さない。あまりにもしばしば、いらいらした短気な言葉、すなわち人の心に最も悪い気持ちを起こさせるような言葉を出している。そのような者たちには、魂の中に持続的なキリストのご臨在が必要である。キリストの力によってのみ、彼らは言葉と行為を守ることができるのである。

この心を守る働きにおいて、わたしたちは祈るのにすばやい者、また助けを求めて恵みのみ座に嘆願するのに疲れを知らない者でなくてはならない。クリスチャンの名を持つ者は、熱心に謙遜に助けを求めて神のもとに行かねばならない。……クリスチャンはいつも祈りの姿勢をとることはできないが、彼らの思想と願いは絶えず上向きであることができる。

あなたの心を天に保つことによって、あなたのすべての恵みに活力が与えられ、あなたのすべての義務に命が与えられるのである。絶えず天の事柄を熟考するために思いを律することによって、あなたのすべての努力に命と熱心が加えられる。わたしたちの努力がものうげで、わたしたちがクリスチャンの行程をのろのろと走り、怠惰と怠慢を示しているのは、天の賞与をあまりにも低く評価しているためである。わたしたちは霊的な達成において小人である。「全き人」へと、神のみ子を知る知識に成長していくことは、クリスチャンの特権であり義務である。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1157)

6月5日

だれがわたしの人生を支配しているか

「神よ、どうか、わたしを探って、わが心を知り、わたしを試みて、わがもろもろの思いを知ってください。わたしに悪しき道のあるかないかを見て、わたしをとこしえの道に導いてください。」(詩篇 139:23, 24)

神はその民を一步一步導かれる。神は彼らの動機を明らかにしようもくろまれた立場へ彼らを連れていかれる。ある者はある点では持ちこたえるが、その次で転落する。一步一步前進するごとに、心はテストされ、しかももう少し厳密にテストされる。もしだれでも自分の心が神のまっすぐな働きに対して反対しているのがわかるならば、勝利のためになすべき働きがあることを自覚しなければならぬ。そうしなければ、彼らはずいに主から拒絶されるであろう。

この世は神の御前にでるために備えるところである。各個人はどの力が自分たちの心に働き、また自分たちの行動を支配しているかをこの地上で示すのである。……もし彼らが何かを真理よりも高く評価しているならば、彼らの心はイエスを受ける準備ができておらず、その結果としてこのお方を閉め出しているのである。もし各自が試みられたとき、自分の偶像を犠牲にすることを拒むならば、……神の御霊は彼らを去り、彼らは罪の傾向が克服されないまま、悪天使の支配下に取り残されるであろう。

キリストに従うと公言する多くの者が、自らの心を注意深く吟味することを喜ばず、また自分たちが死から命へ移されたかどうかを調べようとしない。ある者は古い経験にたより、あたかも真理を告白するだけで救われると考えているようである。しかし神のみ言葉は、そのような人々はみな、偽りの望みをいだいているのだという恐ろしい事実を明らかにしている。……

若い者も年老いた者も、神は今あなたを試しておられる。あなたは、いま自分の永遠の運命を決定しているのである。誇り、流行、空しい会話、利己心は、もし育てられるならば、増え広がって、あなたの心にまかれた良い種をふさいでしまう悪である。(レビュー・アンド・ワールド 1880年4月8日)

わたしたちはキリストに従う者として、あたかも灯心をもってするように、自分たちがどのような精神のものであるかを調べるために心を探ろう。わたしたちは現在と永遠の幸福のために、自分の行動を批評し、それが神の律法の光のうちにとどのようなものであるかを調べよう。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ワット・コメント] 7巻 986)

わたしたちは完全にキリストに従い、頭も手も耳もまたすべての能力と力をも、イエスにささげる人を必要としている。わたしたちが必要としているのは、財力でも知力でもなく、心の力なのである。(手紙 26, 1880年)

人生の戦場の兵士

「信仰の戦いをりっぱに戦いぬいて、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたは、そのために召され、多くの証人の前で、りっぱなあかしをしたのである。」(テモテ第一 6:12)

魂が悔い改めたとき、その救いはまだ完成していない。彼らにはそれから走らねばならない行程がある。彼らの前には「信仰の戦いを立派に戦いぬ」くための厳しい奮闘がある。……その戦いは生涯続くものであり、あなたが追求している目的、すなわち永遠の命の価にみあった断固とした精力をもって進められねばならない。……

サタンは絶えず滅ぼそうとしている。彼はわたしたちの魂と義の太陽の光の間に、地獄の影を落としている。あなたが疑いを口にし、あなたの天父の愛に信頼しないとき、サタンがわりこんで来て、その印象を深め、落としていた影を絶望の暗黒にしてしまう。今あなたにとって唯一の望みは、暗黒について語ることをやめることである。暗い側を思いめぐらすことによって、あなたは神への確信をなげ捨てるのであるが、これこそサタンが望んでいることなのである。彼はあなたを麦のようにふるいにかけることを願っている。しかしイエスはあなたのためにとりなしておられる。主の愛は広くて深い。「どうしてあなたは主がわたしを愛しておられることがわかりますか」とあなたは言うかもしれない。わたしは、あなたも見るができるもの、すなわちカルバリーの十字架を見ている。あの十字架上で流された血はすべての罪をきよめるのである。……

わたしたちは日ごとに自分の運命を切り開いている。わたしたちには勝ち取るべき永遠の命の冠と、避けるべき地獄がある。わたしたちは確かに自分自身を救うことはできないが、キリストがわたしたちの救われるのを望んでおられることも知っている。主はわたしたちの魂の身代金を払うことができるためにご自身の命を下された。このお方がこの無限の犠牲を払われたのであれば、主はわたしたちに対して無関心に扱われることはない。……

わたしたちは道であり、真理であり、命であるお方をしっかりとらえたいと願っている。……わたしたちには生ける救い主、生ける嘆願者、すなわちいつでも必要な時に助けてくださるお方がおられる。疑いと失望の暗い洞穴に入りこむよう誘惑されるとき、次のように讚美しよう。

「さめよ、わが魂よ、さめよ。あなたの罪深い恐れを払いのけよ、
あなたのために血を流している犠牲があらわれ、
み座の前にはわたしの保証人が立っておられる、
そのみ手にわたしの名はしるされている」(手紙 9a, 1891 年)

6月7日

聖い生涯の宮殿

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(ペテロ第一 2:9)

地上のキリストの教会は、エホバの律法を踏みつけている不忠実な世の道徳的暗黒のただ中にある。しかし彼らの贖い主、すなわち自らの尊い血潮をもって彼らの身代金を払われたお方は、その教会がつくりかえられた体となり、世の光であられるお方によって照らされ、インマヌエルの栄光をもつことができるようにあらゆる備えをなされた。義の太陽の輝かしい光は主の教会を通して輝いており、その光は、主の許に来てそこに避けどころを見出すすべての失われた迷える羊を主のおりに集める。彼らはとこしえの平和と義の主のうちに平和と光と喜びを見出すのである。(SDA バイブル・コメンタリー [E・G・ホト・コメト] 7 巻 968)

教会員は、おのおの自分の魂のうちに、神の愛の光が明るく燃え続けるようにしなければならない。そうすれば他の人にも光を照らすことができる。霊的な昏睡状態がわたしたちに忍び寄るのを許すのは、あまりにも多くの危険をおかすことになる。宗教的な奉仕や義務を嫌う気持ちにふけらないよう注意しよう。魂の怠慢に対して決然と戦おう。これはクリスチャンの成長やまたクリスチャンの命さえも脅かすものである。教会員が他の人々に善を行い、魂を救うために、活発で個人的な努力を払っている教会は、健康であり、繁栄する。それはすべての良い働きのためのたえまない刺激となる。そのようなクリスチャンは自分自身の救いを得るために、より熱心さをまして働くのである。眠っている力は目覚めさせられ、魂全体が、なんとしても救い主から「良くやった」との賞賛をいただき、勝利者の冠を受けようとの不屈の決意に満たされる。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 1 月 12 日)

キリストはその教会を神のうるわしい宮とされる。「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」と主は宣言される(マタイ 18:20)。主の教会は聖い生涯の宮殿であり、さまざまの賜物によって満たされ、聖霊が与えられる。天によって地上の各教会員にしかるべき義務がわりあてられる。そして、すべての人は、自分たちが助け祝福している人々の幸福のうちに、自分の幸福を見出すべきである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1910 年 3 月 1 日)

神の仕事場で

「この主のみもとに来て、あなたがたも、それぞれ生ける石となって、霊の家に築き上げられ、聖なる祭司となって、イエス・キリストにより、神によるこぼれる霊のいけにえを、ささげなさい。」(ペテロ第一 2:5)

ユダヤの神殿は、山から切り出された石で建てられた。そして、すべての石は神殿のそれぞれの場所にぴったりはめられるように、切られ、磨かれ、試されてから、エルサレムに持ち込まれた。そしてすべてのものがその地に運びこまれたとき、おのやつちの音をたてることなく建築が進められた。この建物は神の霊的な宮、すなわちあらゆる国民、国語、民族から、また貴賤を問わず、貧富を問わず、博学か無学かを問わずあらゆる階級から集められた材料でなる宮を表している。それはつちやのみで形を合わせられるような死んだ材料ではない。それは生きた石であり、真理によって世から切り出された。そして、偉大なる建築者であり、宮の主であられるお方は、今彼らを切り出し、磨き、霊的な神殿のおのおの場所にぴったり合うようにしておられる。この神殿が完成した時には、あらゆる部分が完全で、天使と人の称賛的となるのである。それをもくろみ、また建てたのは、神だからである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 卷 1029)

この神殿の建築にあたって示された配慮は、わたしたちにとって自分たちの品性建設において示すべき配慮に関する教訓である。安い材料を用いてはならない。またいろいろな部分を組み合わせるのに、場当たりの働きをしてはならない。各部はそれぞれ完全に合わなくてはならない。ちょうど神の宮と同じように、このお方の教会もなるべきである。品性建設にあたって、神の民は一本でも価値のない材木を持ち込んだり、不注意で無関心な働きをしたりしてはならない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 2 卷 1030)

わたしたちは今神の仕事場におり、この恵みの時にわたしたちを栄光の宮にふさわしいものとするための作業は進められている。わたしたちは今、無関心で怠惰で不注意でありながら、そして罪から離れることを拒みながら、……純潔で聖なる者となり、宮殿のかたちにならってかたちづくられた品性をもつ者となることを期待することはできない。今は準備の時である。今は自分の欠点を取り除くことができる時である。(手紙 60、1886 年)

輝かない石には価値がない。教会の価値を構成しているのは、死んだ輝きのない石ではなく、生きた石、すなわち義の太陽なる隅のかしら石から来る光をとらえる石なのである。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホト・コメント] 6 卷 1116)

6月9日

クリスチャンの交わりの祝福

「ある人たちがいつもしているように、集会をやめることはしないで互いに励まし、かの日が近づいているのを見て、ますます、そうしようではないか。」(ヘブル 10:25)

信仰の家族に属する者たちは、共に集まることを決して怠ってはならない。なぜなら、これは神の子らがクリスチャンの愛と交わりのうちに互いに助け、力づけ、励ましあうために、彼らを一致に導かれる神のお定めになった方法だからである。
.....

主の兄弟として、わたしたちは聖なる幸福な生活を送るように聖なる召しにあずかっている。服従の狭い道に入ったのであるから、わたしたちは、互の交わりや神との交わりによって、思いを清新にしよう。神の日が近づいているのをみて、わたしたちはみ言葉を学ぶために、そして終りまで忠実であるように互に勧めるためにしばしば集まろうではないか。この地上の集会は、わたしたちが互に語るために、そして天での集会において正しくわたしたちの嗣業の誓いの成就を受けるために用意できかぎりの助けを結集するための機会となるように、神が定められた方法である。

すべての集まりにおいて、あなたは、集会の主であるキリストに会っていることを覚えなさい。互に個人的な関心を持ちなさい。なぜなら人を知るだけでは充分ではないからである。わたしたちはキリスト・イエスにあつて人を知らなくてはならない。「互いに思いやる」と命じられている。これが福音の基調である。この世の基調は自我である。(手紙 98、1902 年)

わたしは神を礼拝するために集まっている小さな群れを励ましたい。兄弟姉妹方よ、あなたがたの人数が少ないために落胆してはならない。平原に一本だけで立っている木は、その根を地に深くおろし、その枝をあらゆる方角に広げ、一人であらしと戦っているあいだも、太陽を受けて喜んでるあいだも、ますます強く、さらに均整の取れた木に成長する。クリスチャンも同じように、地上の頼みの綱から切り離されると、神に全くより頼むことを学び、ひとつひとつの戦いを通して力と勇気を得ることができる。

願わくは、主が散らされている孤独な一人一人を祝福し、彼らを主の有能な働き人になさせてくださるように。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1882 年 1 月 12 日)

上なる教会と一つになる

「こういうわけで、わたしはひざをかがめて、天上にあり地上にあつて『父』と呼ばれているあらゆるものの源なる父に祈る。」(エペソ 3:14, 15)

地上にある神の教会は天にある神の教会と一体である。地上の信者と、墮落したことの無い天の住民たちは、一つの教会を構成している。天の知的存在者はみな、霊とまことをもって聖なる美しさのうちに神を礼拝するために集まる地上の聖徒たちの集会に関心をもっている。天の内庭で彼らは、地上の外庭で語られるキリストの証人たちのあかしを聞く。そして下の教会からのぼる讚美と感謝は天の聖歌となる。キリストがアダムの墮落した子らのために死なれたことがむだにならなかったため、讚美と喜びが天の宮廷中に鳴り響くのである。天使たちが水源から飲むとき、地上の聖徒たちは、神のみ座から流れ出て、神の都を喜ばせるきよい流れから飲むのである。……

地上にある聖徒たちのすべての集会では、神の天使たちが、証や歌や祈りの中で神の民がささげる感謝や讚美や嘆願を聞いている。聖徒たちは自分たちの讚美が天上の万軍の聖歌隊によって補われていることを覚えていよう。……

信者の集会は人数が少ないかもしれないが、彼らは真理の刃物によって、荒い石としてこの世から切り出されたのであつて、……試みと試練によって神の天の宮の一部にぴったりと合うものとされる。そして彼らは、主の御目から見て非常に尊いものである。……たとえ荒削りでも彼らは神の御目から見て尊い。試みと試練というおのとつちとのみは、わざにとけたお方の手にあつて、破壊したり、なきものにしたりするためではなく、すべての魂を完全にするために用いられるのである。……

主がご自分の御座を取り壊されることがないように、このお方はイエスのうちにある最も謙遜で低い信者を捨てられることはない。わたしたちは愛する御子にあつて受け入れられている。わたしたちは王の家族、天の王子、神の相続人、イエス・キリストと共同の相続人なのである。(原稿 32a, 1894 年)

6月11日

最もすばらしい集会

「そのとき、主を恐れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書がしるされた。」(マラキ 3:16)

これはなんと望みを起こさせる光景であろう。ここで身を乗り出してご自分の証人たちの語るあかしを聞いておられる主があらわされている。……

神と天使が喜んで聞く言葉は、神のひとり子を通して世に与えられた大いなる贈り物に対する感謝の言葉である。真理の光の祝福をほめたたえる言葉はすべて……天の記録に残される。わたしたちの罪を取り除き、ご自分の義を着せるためにイエスを与えてくださったわたしたちの天父のあわれみ深いやさしさを感じ感謝するすべての言葉は、このお方の覚え書にしるされる。このようなあかしは「暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、……語り伝える」のである(ペテロ第一 2:9) ……。

時間と時期とは非常に尊い。集まった信者たちは、天の宇宙の謁見室にいる。彼らは神と、世のためにご自分の命を下された主イエス・キリストのためにあかしをするのである。……この小さな集会に、いかに深く重大な重要性が伴っていることであろう。イエス・キリストはこれらの魂のために、ご自分の血潮をもって身代金を払われた。そして彼らが神を礼拝するために集まっているとき、このお方が彼らの真ん中におられるのである。天の主権者は、信者たちの環境がいかにつつましいものであろうと、彼らと利害を一つにされる。そして彼らに共に集まる特権の与えられるところではどこでも、しばしば互に語り合い、主のみ名を考えることによって生じる感謝と愛について述べることはふさわしいことである。このように神が耳を傾けてお聞きになるとき、神は栄光をお受けになる。そして証会ほどの集会にもまさって最も尊いものとみなされるのである。……

わたしたちは……天使たちが覚え書に、キリストの品性と使命の正しさを証明する一つひとつの言葉を記録していることを覚えよう。神の愛を証する者について主は、「わたしの者となり、わたしの宝となる」と言われる(マラキ 3:17)。(原稿 32、1894年)

多様性の一致

「からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目指して召されたのと同様である。……すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。しかし、キリストから賜わる賜物のはかりに従って、わたしたちひとりびとりに、恵みが与えられている。」(エペソ 4:4-7)

多様性における一致は神のご計画である。キリストに従う者の中に、多種多様な要素の融合があるべきであり、人がお互いに合わせ、そして各自が神のために自分の特別な働きをすべきである。各個人は、キリストのみかたちという印を帯びた一つの偉大な計画にしめるべき自分の場所を持っている。……一人はある仕事に適し、もう一人は彼にあうまた別の仕事があり、また他の人は別の方面で仕事がある。しかし、各自は他の人を補うのである。……さまざまな要素のうちに、またそれらを通して働いている神のみ霊は、活動の調和をもたらしてくれる。……主たる霊は一つでなければならない。すなわち知恵において無限であり、その中であってあらゆる多様な要素が美しく比類のない一致のうちに出会うお方のみ霊である。……

性格の相違は、生来存在する。しかし、わたしたちの一致は、わたしたちが神の霊の変化させる影響力にどの程度自分をゆだねるかにかかっている。キリストの恵みを通してある人は、品性の尊い特徴、すなわち親切で温和な性質を持っている。彼らの叱責そのものがやさしさの吹き込まれたものであって、彼らの内にキリストの霊が表わされているように見える。……主の恵みの力は聖なる模範なるお方に従って品性をかたちづくり、品性をやわらかく美しくあらたにし、祝福に満ちた主ご自身の姿に一致させる。……

自然界に表わされた多様性はなんと偉大であろう。すべてのものは、特有の行動領域をもっていながら、それと同時に一つ一つがつながって大いなる全体の中に見出される。キリスト・イエスはみ父との一致の中におられる。そして、偉大なる中心からこのすばらしい一致が、……あらゆる階級や多種多様のタラントを通じて拡張していくべきである。わたしたちは他の人のタラントを互いに尊重しなければならない。わたしたちは善や、無私の考えや行動において調和しなければならない。なぜなら、キリストの霊が生ける活動的な力として、全体の中を循環しているからである。……一致を生み出すのは、目を見張るような行動ではない。それは品性の上におされた聖霊の型なのである。(手紙 78、1894 年)

6月13日

キリストにあって一致する

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。」(ヨハネ 17:21)

このおごそかで熱心なキリストの祈りは、……ずっとのちのわたしたちの時代にまで及んでいる。墮落した人間にとって服従を通して到達するこの地位、すなわちイエス・キリストを通して神と一つとなるとは、何という地位であろう。もし、わたしたちが報いをもって尊ばれるとすれば、どれほど高く上がることを許されていることであろうか。わたしたちは、神から力を受けねばならない。それは人間の性質が神の働きの下で、いつもゆがめられることなく、いつも罪の腐敗的で墮落的な影響下にあることがないためである。イエス・キリストを通して人間の性質は、天使と連合するようになる。しかり、偉大なる神とさえ連合するのである。(原稿 43, 1891 年)

真に神とつながっている者たちは、互に不和になることはない。……彼らの心の中で支配している神のみ霊は、調和と愛と一致を造り出す。この反対は、サタンの子らの中で働く。彼らには絶えず矛盾がある。争いと敵意と嫉妬が支配的な要素である。クリスチャンの特性はキリストの柔和である。慈悲、親切、あわれみ、愛は、無限の知恵なるお方に源を発し、その一方で反対の要素はイエス・キリストと調和しない心の汚れた実である。……一致のうちには力がある。分離のうちには弱さと敗北がある。(原稿 2, 1881 年)

キリストの使命についてわたしたちがこの世に与えうる最も強力な論拠は、完全な一致のうちに見出されるのである。……わたしたちがどれほどキリストと一致しているか、それが魂を救うわたしたちの力となる。(原稿 88, 1905 年)

もし、わたしたちが完全という標準に到達するとすれば、わたしたちの性質の独特な傾向は、キリストの御旨に調和して形づくられなければならない。そうすれば、わたしたちはキリストにあって共に天上で座につくであろう。兄弟たちは共に働き、衝突しないであろう。小さい相違を考え続けていると、クリスチャンの交わりを破壊する行動へと導かれる。……つねに神に近づいていよう。そのとき神はわたしたちに近づかれる。そうすればわたしたちは、一つとなって主の許へ到達する。教会は主によって耕される花園ようになる。神の民は主に植えられ、命の川の水を注がれる義の木となるのである。(手紙 141, 1902 年)

一つの大きな兄弟関係

「さて兄弟たちよ。わたしたちの主イエス・キリストの名によって、あなたがたに勧め。みな語ることを一つにして、お互いの中に紛争がないようにし、同じ心、同じ思いになって、堅く結びあってほしい。」(コリント第一 1:10)

わたしたちにはひとりの主、一つの信仰、一つのバプテスマがある。キリストの福音はあらゆる階級、あらゆる国民、あらゆる国語と民族に伝えられねばならない。福音の影響力は、一つの大きな兄弟関係のうちに一致させることである。わたしたちには品性建設において模倣すべきただ一つの手本しかないのであるから、そうであればみなキリストのかたちを持つようになるのである。わたしたちは完全に調和するようになる。国籍はキリストのうちに溶け合い、同じ思い、同じ判断を持つようになり、同じことを語り、声を合わせて神に栄光を帰するのである。これは、世の贖い主が、わたしたちのためになされるべき働きである。もし、わたしたちがイエスのうちにあるがままの真理を受け入れるならば、国家的な偏見や嫉妬は打ち砕かれ、真理の御霊が心をつひとつにだけ合わせる。わたしたちは兄弟として愛し、自分よりも他人をより良く評価する。わたしたちは親切で礼儀正しく、柔和で謙遜で、温順であわれみとよい実に満ちあふれるようになるであろう。
.....

神はいろいろな国民の特性をどのように扱うかを知っておられる。……第三天使のメッセージは……特別な働きをなすために民を一致させるべきである。そしてキリストがご自分を愛する者のために備えに行かれたすまいにおいて、一つの大家族として一致するために、品性の完全さをもって彼らを準備させるのである。
.....

真理は力強く、また遠くまで及ぶものである。真理は各国民をみな一つの大きな兄弟関係のうちに一致させる。……人々の中におられるキリストが、彼らを一つの大きな土台の上に一致させ、天において一つの家族となる準備をしておられるのである。人類をつひとつにし、国家的な偏見を取り除くのは真理である。……

真理は国籍が何であろうと、その心に同じ型にかたちづくる影響力をおよぼす。真理を受け入れるすべての人の心は、自分を支配する主権にひれ伏す。そして信仰によって彼らの心にキリストが宿られるとき、彼らは一つの思いとなる。なぜなら、キリストは分かたれていないからである。彼らは主の力にあつて強くなり、主の平安にあつて幸福に一致するようになる。真理はどの心にも、同じ征服力をもっている。真理は、それを受ける者の心を精錬し、高尚にするのである。(原稿 12、1886年)

6月15日

すべての敵に勝利する

「真理の言葉と神の力とにより、左右に持っている義の武器により、」(コリント第二 6:7)

道徳的暗黒時代を通じ、また争闘と迫害の世紀を通じて、キリストの教会は丘の上の町であった。各時代にわたって、現代にいたるまでの各世代を通じて、聖書の純粋な教理は、教会の中で明らかにされてきた。キリストの教会は、たとえどんなに弱く欠点があるように見えても、キリストが特別な意味でその愛と関心をお与えになる地上の唯一の対象である。教会は、主の恵みの手術室であり、そこで主は人間の心にあわれみの実験をほどこされることを喜ばれるのである。

教会は反逆した世の中であって、神のとりで、のがれの町である。教会の受けている聖なる信頼を裏切ることは、その愛するひとり子の尊い命をもって教会を買い取られた神に対する反逆である。世界の歴史を通じて、いつも忠実な魂が、地上において教会を構成してきた。……

今日も過去と同じように、全天は、教会が真の救いの科学のうちに発達するのを見守っている。……キリストは狭い道、すなわち一步一步が自己否定を意味する道に入るとわたしたちを召しておられる。主はわたしたちが永遠の真理の土台の上に立ち、戦うように、しかり、聖徒たちにひとたび伝えられた信仰のために熱心に戦うようにと召しておられる。……

わたしたちが……サタンの惑わしの力が非常に大きくなって、もしできれば選民さえも惑わそうとする時に近づくにつれて、わたしたちの識別力は神の啓発によって鋭くされなければならない。それによってサタンの策略に無知であることがないためである。主の道を備える働きにおいて、全天の宝はわたしたちの意のままである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1910年3月1日)

主の教会が知識と純潔において、光から光へ、栄光から栄光へとつねに前進することが神のご計画である。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900年12月4日)

わたしたちの希望は人間ではなくて、生ける神にある。わたしたちは、神が、み名の栄光のために、神の全能の力を人間の器の努力に結びつけてくださることを、心から確信して期待することができる。わたしたちは、神の義の武具をまわって、すべての敵に勝利することができるのである。(国と指導者上巻 82)

愛という黄金のくさり

「わたしは、新しい戒めをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう。」(ヨハネ 13:34, 35)

キリストの愛は、イエス・キリストを信じる有限な人間と無限の神をつなぐ黄金のくさりである。主がご自分の子らに対して持つておられる愛は知識を越えたものである。科学はそれを定義づけることも説明することもできない。人間の知恵はその深さを測ることができない。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1141)

自我と誇りはわたしたちをイエス・キリストに霊的に結びつける純潔な愛を妨げる。もし、この愛が本当につちかわれるなら、有限の者は有限の者と混じり合い、すべての者が無限のお方に集中する。人性は人性と結びあわせられ、すべての者が無限の愛であるお方の心と一つに結びあわされる。お互いに対する聖化された愛は神聖である。この偉大な働きにおいて、お互いに対するクリスチャンの愛—以前よりはるかに高く、もっと変わらない、もっと礼儀正しく、もっと無我の愛—はクリスチャンのやさしさ、クリスチャンの愛と礼儀を保ち、神が人に権利を授けられた尊厳を認めつつ、神の抱擁のなかに人間の兄弟関係を包みこむ。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホイト・コメント] 5 巻 1140)

愛という黄金のくさりは友情と愛の絆のうちに、キリストまた御父と一つであるなかで、信者の心の一つに結びつけ、つながりを完全にし、否定できないキリスト教の力を世界にあかす。……そうなると自我は根絶され、不信仰は存在しなくなる。そこには争いも分裂もない。キリストと固く結ばれた者には頑固さはない。だれ一人として、自分を導いている手をふりはらって、一人で自分の道を歩き、つまづくことを選ぶ、片意地で衝動的な子供のような、頑固な独立した行動をとる者はいない。(手紙 110、1893 年)

愛はかわいい植物であって、育てられ大事にされなければならない。そして愛が流れる余地を造るために、そのまわりにはえている苦い根をすっきり取り除かなければならない。そうすれば愛は思いのあらゆる力と全心をその影響の下に置き、それによってわたしたちは神を最高に愛し、隣人を自分自身と同じように愛するようになる。(原稿 50、1894 年)

6月17日

キリストのくびきの下に

「兄弟を愛する者は、光におるのであって、つまづくことはない。」(ヨハネ第一 2:10)

サタンは誘惑によって、魂に対して有利な立場を得ようと努めている。あなたほどの魂に対しても、誘惑となり、失望させるようなことを言ったり行ったりしてはならない。その人はキリストの血によって買われた者であることを覚えなさい。すべての魂は尊い。あなたはカルバリーの十字架を見るときだけ、魂を正しく評価することができる。あなたの言うこと、行うことが何であっても、魂を誤った方向に傾かせるのであれば、何と悲しいことであろう。あなたは義務というひもで、神とあなたの同胞につながれている。あなたはこれらのひもを切ってこれらの義務から自分を自由にするにはできない。(手紙 13a, 1879 年)

他人がどのように考え、どのように言うかと悩んではならない。……ただ主にすがりつきなさい。このお方は決してあなたを失望させることはない。……わたしたちは、サタンがすべての魂を獲得しようと熱心に働いていることを、常に心に留めていなければならない。わたしたちは、だれにも有利な立場を取ることでできるような機会を少しも与えないで、主の側で働かねばならない。……もし、あなたを怒らせるような言葉が語られ非難されるなら、あなたが与えることができる最上の叱責は、あたかも聞こえなかったかのように沈黙を保つことである。……わたしたちはみな、自分がキリストのくびきの下にあることを覚え、救い主とこのお方がわたしたちに負うように求めておられるくびきを辱めないようにしなければならない。(手紙 117, 1899 年)

他人が何をしようと、また何と言おうと、またあなたについて何を考えようと、神のあなたに対する思いを変えるものではない。義を行う者が義人なのであり、人間の意見がその品性を変えることはない。……イエスはあなたを愛しておられる。そして、このお方はあなたの品性をだれか人間のものさしではかられることはない。あなたはイエスを見上げ、イエスのみ姿を反映しなければならない。主の愛を考えつづけなさい。あなたと共に住んでくださるように、天の来客を招き入れなさい。……

あなたの精神をあらゆる世的なもの、あらゆる汚れたもの、あらゆる無慈悲な思想から清めなさい。あなたの言葉を清く、聖化されたものとし、あなたと交わるすべての人を生き生きとさせ、清新にするようなものとしなさい。たやすく怒ってはならない。あなたについて語られる悪が実際のこととならないように、神への讚美があなたの心に、またくちびるにあるようにしなさい。(手紙 102, 1899 年)

あふれ出る愛

「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生まれた者であって、神を知っている。」
(ヨハネ第一 4:7)

天の原則である永遠の愛が心を満たすとき、それはあふれて他の人に及ぶ。それは単に彼らから好意を受けるからではなく、愛が行動の原則であり、品性を形づくり、衝動を治め、感情を支配し、敵意を征服し、愛情を高めるからである。この愛は、ただ「わたしとわたしのもの」だけを含む狭いものではなく、世界のように広く、天のように高いのである。それは、天の働き人と調和している。この愛が魂のうちに大事にされると、生活全体を芳しいものとし、あたり一面に精錬する感化をふりそそぐ。それを持つならば、運命がほほえもうが、まゆをひそめようが、わたしたちは幸福にしかかなりえない。もしわたしたちが心を尽くして神を愛するならば、神の子らもまた愛さねばならない。この愛は神のご精神である。それはすべての魂に高貴と尊厳を与える天の飾りである。(エス・インストラクター 1897年12月23日)

イエスの愛に満たされた魂は、言葉に、物腰に、まなざしに、希望と勇気と誠実とを与えるのである。……それはより良い生活への希望を起こさせ、いまにも失神しそうな魂を強める。試みに対して苦闘している者は力づけられ、慰められるのである。言葉と表現とふるまいは、明るい日の光を投げかけ、その背後に天に至る道をはっきりと残すのである。……わたしたちにはだれでも他人を助ける機会がある。わたしたちは、たえずまわりにいる青年たちに印象を与えている。顔の表情はその人の内面生活をうつす鏡そのものである。イエスはわたしたちがご自分のようにやさしい同情に満ち、人生の小さな義務において愛の奉仕を実行するように望んでおられる。……

わたしたちの義務は、キリストの愛の雰囲気の中に生き、主の愛を深く呼吸し、その暖かさをまわりに反射することである。ああ、わたしたちの前には、何という感化力の領域が開かれていることであろう。わたしたちは、いかに注意深く魂の園を耕し、それがただ純潔であまく芳しい香りの花だけを咲かせるようにすべきことであろう。愛の言葉とやさしさと愛は、他人に対するわたしたちの感化を聖化する。(原稿 24、1887年)

6月19日

心を結ぶ絹のひも

「愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ 5:13)

愛は互いの心を結ぶ絹のひもである。わたしたちは自分自身を模範に定めなければならないと感じてはならない。わたしたちが自分自身について考え、当然自分が他人から受けるべきだと思ふことを考えている限りは、わたしたちが魂を救うという働きをすることは不可能である。キリストがわたしたちの心を占領される時、もはや自分の思想と注目を中心とする自己という小さな狭い輪はなくなるであろう。

イエスはご自分の生涯の伝道の働きを通して、人類の命に対して何とすばらしい敬意を示されたことであろう。主は注目と敬意と奉仕を要求する王としてではなく、かえって人間に奉仕し、彼らを高めたいと願うお方として、人々のただ中に立たれた。主は仕えられるためではなく仕えるために来たと自ら言われた。……キリストが人間をご覧になる場合はいつでも、思いやりのある同情を必要としている人間としてご覧になった。わたしたちの多くは、だれか特別な人—わたしたちが尊敬している人—に奉仕したいと考えている。しかし、もしわたしたちがこれほど冷淡で不親切で利己的でさえなければ、キリストがわたしたちを祝福にしようとしておられる人々に対しては、注目する価値がない者であるかのように見過ごしているのである。……

許しの大いなる教訓をわたしたちは完全に学ばねばならない。……わたしたちが他人に行くことのできる最大の誤りは、何らかの方法で他人がわたしたちを傷つけたと考えて彼らを許さないことである。これはクリスチャンと自称する者にとって最大の危険である、なぜならば、彼が兄弟を扱うのと同じように、主はわたしたちを扱われるからである。

わたしたちは、キリストの品性を、より高く、よりはっきりと見る必要がある。……わたしたちは神をただ裁判官とばかり考えて、愛情深い父であることを忘れるようなことがあってはならない。これよりも大きくわたしたちの心を傷つけるものはない。わたしたちの霊的生涯はすべて、神の品性に対するわたしたちの概念によって形作られるからである。(原稿 35、1886年)

「こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者にならなさい。また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神への芳しいさげもの、また、いけにえとしてさげられたのである」(エペソ 5:1, 2)。これがわたしたちの到達するように要求されている愛の高さである。そしてこの愛の織物は、自我によって汚れていないのである。(原稿 1巻、1899年)

過ちを犯した人を助けなさい

「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心を持って、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。」(ガラテヤ 6:1)

罪過に陥った人をやさしくあつかうようにという特別な指示がここに記されている。「陥る」ということばに深い意味がある。……これは気付かないで罪に導かれたことであり、罪を犯そうと思ったのではなく、また祈りと警戒の欠乏によって罪を犯したのであり、サタン誘惑に気づかず、そのため彼のわなに陥ったのだから、罪の道を計画し、そしてわざと誘惑に入っていく者とは全然違っている。……

計画的な罪を調べるにはもっと効果的な手段が必要であるが、使徒は、誘惑に襲われた、あるいは驚いて誘惑に陥った人々をどのように扱うかを教えている。……「もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省し」つつ、柔和な心でその人を正しなさい、と教えている。このような人々が自分の危険と罪を見るよう導くためには、信仰と譴責が必要であり、親切な勧告と、神への祈りが必要である。「正す」の原語の意味は、はずれた骨をもとのようにつなぐ事である。そのようにこの努力は彼らをもとのようにつなぎ、自分の罪と誤りを彼らに認めさせることによってわれに返るようになさなければならない。……兄弟の過ちによって勝ち誇ってはならない。かえって柔和に神を畏れつつ、彼らの魂に対する愛をもって彼らを罪から救うよう努めなさい。(手紙 11、1887年)

人が流れに逆らって進まなくてはならないとき、彼らを押し戻そうとする波の圧力がある。そうであれば長兄であるお方の手が沈んでいくベテロに差し出されたように、手をつかんでいただく。……誤って行動したと思われる者が、兄弟によって落胆させられることがないようにしよう。かえって同情に満ちた手が彼をしっかりと握りしめているのを感じさせ、「共に祈ろう」というささやきを聞かせることができるようにしなさい。聖霊は双方に豊かな経験を与えるであろう。心を一にするのは祈りである。神の祝福をもたらすのは、魂を癒していただくために祈る大いなる医師への祈りである。祈りはわたしたちを互に一致させ、また神と一致させる。祈りはイエスをわたしたちの側におき、弱々しく悩まされている魂に、この世と肉と悪魔に勝利するための新しい力と新しい恵みを与える。祈りはサタンの攻撃をそらしてしまう。(手紙 50、1897年)

6月21日

百に対する一

「その時、ペテロがイエスのもとにきて言った、『主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯した場合、幾たびゆるさねばなりませんか。七たびまでですか。』イエスは彼に言われた、『わたしは七たびまでとは言わない。七たびを七十倍するまでにしなさい。』（マタイ 18:21, 22）

わたしたちの前には大いなる働きがある。キリストの囲いから迷い出ている男女がおり、彼らが冷たく無関心になって戻る気持ちを全く失うとき、彼らはあなたがたを捜し求めない。あなたは彼らのいる場所で彼らを抱かなければならない。……あなたが迷っている羊を見出したなら囲いに戻るよう呼びかけ、彼が囲いの中に安全に保護されるまで彼を離れてはならない。……イスラエルの家の失われた羊を探しに出て行きなさい。

もし、あなたが何か一つの過ちをある点で犯したならば、彼が百の過ちを犯していたとしてもあなたのした一つの悪を取り除いて、彼が再び帰って来るようにと彼のために道を開きなさい。おそらくはその一つの悪が魂を遠くに離れたままにしていたのである。へりくだってあなたの一つの過ちを告白しなさい。おそらくそれは彼の心にふれ、彼が百の過ちを涙をもって告白し、それらを捨てるように彼を導くことができる。そのようにしてキリストがそのために死なれたその魂は救われるであろう。……

あなたは、「わたしはこの人を、またあの人を救おうと試みたが彼らはわたしを傷つけただけだ。もうこれ以上彼らを助けようとは思わない」と言うかもしれない。しかし、彼らが囲いに直ちに帰ってこないとしても落胆してはいけない。それでもなおあなたの周りの限りある人間である仲間(1)に手を差し伸べなさい。たゆまないでいると、刈り取るようになる。(日付のない原稿 141)

共に押し進みなさい。意見の小さな相違をくさびにして、心と心を離すためにこれを打ち込むのではなくかえってキリストがあなたを愛しておられるように、あなたがどのようにして互いに愛することができるかを見なさい。天におられるあなたの天の父があなたの負い目を許してくださることを、あなたが願うように、あなたに対して負い目を持っている者をどのようにして許すことができるかを学びなさい。そうすればあなたの求めは確かになり、キリストにあって大胆になることができる。なぜならキリストはあなたの願いをご自分の義という天国の信任状をそえて神のみ前に提出して下さり、あなたはキリストがお聞きになること、主が祝福して下さることを信じて、「わたしは主のもの、主はわたしのもの」ということができるからである。(原稿 12、1891 年)

平和をつくり出す人たちをたたえよ

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。」(マタイ 5:9)

平和をつくり出す人たち!家庭において平和をつくり出す人はなんとすばらしい宝、教会において平和をつくり出す人はなんとすばらしい祝福であろうか。彼らは試みられるが、彼らの命はキリストと共に神のうちに隠される。彼らはイエスの模範を注意深く模倣しつつ、このお方を見上げる。彼らはキリストの与える平安を受ける。……

わたしたちの宗教の本当の性質は、わたしたちが占める地位に見出されるのではなく、それはわたしたちの表わすやさしい精神、親切、平和のうちにある。わたしたちの宗教は、家族に幸福をもたらす魂を包んでいる雰囲気によって、その家庭の輪の中で表わされる。……

真のクリスチャンは……安っぽい、いらいらさせるような話し方をしない。彼らは家庭にあつて愛とクリスチャンの礼儀の奉仕を實踐する。これらの奉仕はごく平凡に見えるかもしれないが、全天は他の人々のためになるようにと努める者の一貫した歩みに関心を示す。……

やさしさをにつちかい、キリストの平安を心のうちに持ち、平和をつくり出す者、またキリストに従う者として永遠の命の実を結ぶ尊い種をまくことは、わたしたちの特権であるばかりでなく義務である。キリストに従うと公言する者は、多くの良い有用な特質を持っているかもしれないが、彼らの品性は不親切、気むずかしさ、欠点を探す性質、人を激しきさばく短気等によって著しく傷つけられている。疑いと不信を心にいだく夫や妻は、家庭の中に不和と争いをつくり出す。二人とも訪問者だけにやさしい言葉とほほえみを保って、家庭においては、いらいらした性質を表わし、平和と安らぎを追い出すようなことがあつてはならない。……

家庭において教会において近隣において、また世において、人を平和をつくり出す者としてすることができるのは、実際にキリストのようであることだけである。家庭の宗教は実質上、聖化である。……宗教の真の性質は各個人がその家庭において、彼が交わる者にその義務を行うやり方によって測られる。……あなたの家庭生活において、平和をつくり出す者となるという尊い教訓を学びなさい。(手紙 34、1894年)

6月23日

神に階級はない

「わたしの兄弟たちよ、わたしたちの栄光の主イエス・キリストへの信仰を守るのに、分け隔てをしてはならない。」(ヤコブ 2:1)

この世の社会に存在している不当な行為が、クリスチャンの間で決して容認されてはならない。……神は貧しい人々にあなたの手を大きく開き、また悩んでいる人々、貧困に苦しんでいる人々にもっともやさしい同情を持つよう要求しておられる。……

もしあなたがキリストの精神を持っているなら、あなたは兄弟として愛するであろう。あなたは貧しい家に住む質素な弟子を尊敬するであろう。なぜなら、神はあなたを愛するのと同じように、あるいはそれ以上に彼を愛しておられるからである。神は階級をお認めにならない。神はご自分の印を人の上に押されるが、それは彼らの身分や富や知的な偉大さによるのではなく、彼らがキリストと一つであることによる。人間の真の価値は、心の純潔と目的の一途さからなっている。……キリストと日ごとに交わりつつ生きるすべての者は、人の上に神の評価を置く。この人々がこの世の財産において貧しくても、彼らは善と純潔とを尊ぶ。……貪欲と利己心とむさぼりは偶像であり、神を辱める。……やさしさと同情と慈悲の心がクリスチャンに課せられている。(ビュー・アンド・ワールド 1891年10月6日)

わたしたちはパターンであるお方を注意深く模倣するために研究しなければならないが、それはキリストのうちに宿っている御霊が、わたしたちのうちにも宿ることができるためである。救い主は、この世であがめられ尊ばれた人のなかには見出されなかった。このお方は自分の安楽と喜びを追い求める人々のなかで時間を費やされなかった。このお方はよい働きをしながら、巡回された。このお方の働きは助けを必要としている者を助け、失われた者、滅びつつある者を救い、気がくじけている者の気持ちを高め、とらわれの身の圧迫のくびきをこわし、病める者をいやし、悩んでいる者悲しんでいる者に同情と慰めの言葉を語ることであった。わたしたちはこのパターンにならうよう要求されている。わたしたちは立ち上がって困窮者に神の加護を求め、苦しんでいる者を慰めようと努力しようではないか。わたしたちがキリストの精神にあずかればあずかるほど、同胞に何をすべきかがわかってくる。わたしたちは滅びつつある魂に対する愛に満たされ、天の至高者の足跡に従うことに喜びを見出す。(原稿 1、1869年)

毒草をぬく

「何よりもまず、互の愛を熱く保ちなさい。愛は多くの罪をおおうものである。」(ペテロ第一 4:8)

わたしたちを結ぶきずなは、いかに緊密で優しくなければならぬだろうか！神がわたしたちに託しておられる聖なる真理と調和した言葉と行動を持つよう、わたしたちはどれほど注意しなければならないことであろう！……。

あなたの会話がそれを悔い改める必要のないような性質のものであるようにしよう。……もし、友人や兄弟の品性に害となる一言がこぼれ落ちたならば、決してその悪口を助長してはならない。それは敵の働きだからである。その言葉を出した者に、神の御言はそのような種類の会話をゆるしていないことを思い出させなさい。……贖い主は、この世にご自分をどのように表わすかをわたしたちにお告げになった。もしわたしたちがこのお方の精神を心に抱き、他の人々に対するこのお方の愛を表し、互いの関心事に注意を払い、親切で忍耐深く寛容であるなら、わたしたちの結ぶ実は、わたしたちが神の子であるという証拠を世に与える。……お互いに最も聖なる信仰を築き上げることは祝福された働きであり、それを取り壊すことは苦しみと悲しみに満ちた仕事である。……

わたしたちは自分のまわりにいる人々にイエスの愛をあらわすことによって、お互いの重荷を軽くするよう努めねばならない。もしわたしたちの会話が天と天の事柄に関するものであれば、わたしたちは悪いことを語ることに何ら魅力を感じなくなるであろう。その時、わたしたちの足を危険な場所に置かなくなり、誘惑に踏み込まず、悪魔の力のもとに落ち込まないようになるであろう。

他人の欠点を見つける代りに自分自身を反省しよう。一人一人が、自分の心は神の御前に正しいだろうかと思ねなければならぬ。わたしは天父に栄光を帰しているだろうか。もし、あなたが心に悪い考えを抱いているならば、それを魂から追い払いなさい。あなたの性質を汚すものはすべて心から根こそぎにしなさい。敵意の根をすべて引き抜き、他の人が悪意に満ちた影響によって汚染されないようにしなさい。あなたの心の土に一本の毒草でも残ることを許してはならない。今すぐそれを根絶し、その代わりに愛の植物を育てなさい。魂の宮にイエスに内住していただきなさい。……「もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。」(ヨハネ第一 4:12) (レビュー・アンド・ワールド 1904年2月25日)

6月25日

互いに助け合うこと

「だから、機会のあるごとに、だれに対しても、特に信仰の仲間に対して、善を行おうではないか。」(ガラテヤ 6:10)

主のご計画において、人間は互いに必要なものとして造られた。もしすべての者が自分の助けと無私の同情と愛を必要としている者を助けるために、最善を尽くすならば、何と祝福された働きをすることができるであろう。神はすべての者にタラントを授けておられる。わたしたちはこのタラントを、狭い道を歩く時に互いに助け合うために用いるべきである。この働きを通して、一人一人がこの働きの中で他の人々とつながり、すべての人がキリストと結合する。わたしたちがタラントを向上させ増やすのは、無私の奉仕によってである。

地上において神の教会員は、一つの機械の各部品のようなものである。すべての部品は互いに密接につながっており、すべての部品が一つの偉大な中心に密接に関係があり、それに頼っている。相違の中に一致がなければならぬ。主の工場において一人一人は独立して、他の者から離れて成功する働きをすることはできない。……すべての者は主の奉仕において自分に委ねられた能力を用いねばならない。それによって、一人一人が全体の完成のために仕えることができるためである。一人一人が神の監督のもとに働くべきである。

キリストの神性と人性のすばらしい結合により、わたしたちはこの世においても神性にあずかることができる保証が与えられている。……キリストは、タラントを託された者と共に働くことを自ら約束された。このお方は、わたしたちをご自分の共労者とするために訓練すると約束された。このお方は、わたしたちが善を行い、悪を行うことを拒否しつつこのお方にしがたうのをお助けになる。わたしたちは助けを必要としている人のために、キリストの愛を流す水路とならねばならない。……

キリストは魂の窓を天に向かって開き続けている者にご自分の光をお送りになる。聖霊の感化のもとに彼らは神の働きをする。聖なる律法に服従するために最も近くまで近づく者は、神に最もよく奉仕する者である。キリストに従い、人類家族に対するキリストの慈しみとこの方の同情、又愛を追い求める者は、神と共に働く者としてこの方によって受け入れられる。そのような者は、霊的に低い水準に留まることで満足しない。彼は絶えず高く高くのぼってゆく。(手紙 115, 1903年)

同情の徳

「わたしたち強い者は、強くない者たちの弱さをにうべきであって、自分だけを喜ばせることをしてはならない。」(ローマ 15:1)

わたしたちがみな必要としているものは、もっと純粋なキリストのような同情であって、完全な者に対する同情ではなく—彼らはそれを必要としていない—貧しく、苦しんで戦っている魂、しばしば過ちを犯し、罪を犯しては悔い改め、誘惑されては失望している魂に対する同情である。親切の効果は魂を和らげ服従させることである。その時、この冷たい近寄りがたいものはすべて溶け、服従し、キリストが現われる。

神の愛だけが心を開き、広げることができ、愛と同情に測ることのできない広さ、高さを与えることができる。イエスを愛する者は、すべての神の子を愛するであろう。人が自分の無気力や不完全を感じる時、彼は自分を見ることをやめてキリストを見るように導かれる。そして救い主の愛があらゆる冷たいパリスイ的な障壁をこわし、すべての過酷さと利己心を消し去り、気質が正反対の人々とさえ、魂と魂の交わりをもたらすであろう。

神の慈しみとゆるし、罪人に対するこのお方の自己犠牲の愛は、神の恵みをはっきりと見る者を、他の人々にも同じものを表し惜しみなく同情を与えるように導かなければならない。キリストの生涯のすばらしい模範、泣く者と共に泣き、このお方の愛のうちに喜んだすべての者と共に喜びつつ、圧迫されている魂の気持ちを汲みとるこのお方の測り知れないやさしさは、神を愛し、神の戒めを守るすべての者の品性の上に、深い影響を及ぼさなければならない。

彼らはいよいよではなく、惜しみなく同情を与える。彼らは、親切な言葉と行いを通して、自分の足のために望むのと同じ道、疲れた足でもたやすく歩ける道にするために努力する。わたしたちが毎日毎時間、神の祝福を受けるとき、キリストがそのために死なれた人々にたいして、親切で無私の関心を持つこと以上に、わたしたちの感謝の気持を示すことはできない。わたしたちは祝福を受けているだろうか。しかり、受けている。そして、キリストはそれを他の人々にも回すよう、ただ、自分の好きな数人の人ではなく、わたしたちが接するすべての人に回すようにと言われる。わたしたちは恵みを受けるために恵みを与えねばならない。(手紙 78、1894 年)

6月27日

わたしの隣人とはだれのことですか

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互いに尊敬し合いなさい。」(ローマ 12:10)

クリスチャンの生活は、クリスチャンの思想、クリスチャンの言葉、クリスチャンの態度によって明らかにされる。キリストのうちに聖なる品性の完全がある。わたしたちはキリストにあつてキリストの働きをする。わたしたちはキリストのうちに、神と隣人に対する拘束力のある、遠大な義務を感じる。……わたしたちの同胞、人々、神にわたしたちを結びつけるきずなはたくさんあり、この関係は責任の重さを伴った厳粛なものである。(手紙 13a, 1879 年)

わたしたちはこの世にいる限り、互いにつながっていなければならない。人間は人間と織り合わされ、織り混ぜられている。クリスチャンとして、わたしたちは互いに肢体である。……主は、わたしたちが、ご自分のむすこ娘として、ご自分の友と呼ぶ者として、互いに助け合うよう計画しておられる。これはわたしたちの、クリスチャンとしての実際的な働きの一部でなければならない。

「わたしの隣人とはだれのことですか」……最も助けを必要とする人がその人である。霊的に病んでいる兄弟は、あなたが彼を必要としたようにあなたを必要としている。彼は、かつての自分と同じように弱く、自分に同情し、助けることができる人の経験を必要としている。自分の弱さを知ることが他の弱い人を助けるための良い助けとなる。

ほんのわずかな接触にも敏感に反応すべき同情のきずなを、以前そうであったように、鋼鉄のように、氷のように冷たくし、助けが必要なところで助けることができないというようなことがあつてはならない。(手紙 17, 1899 年)

あなたが交際している人々を助け、力づけ、祝福するよう努めなさい。主はあわれみ深い者にあわれみ深い方である。主は他人にやさしさと思いやり、また同情をあらわす者に、やさしく同情深い方である。わたしたちは、キリストの学校にいますが、それは、自分をどのように高く評価することができるか、人から名誉を受けるためにどのように振舞えばよいかを学ぶためではなく、どのようにしてキリストの柔和を心に抱くかを学ぶためであることを悟らなければならない。自我と利己心は絶えず支配権を求めて努力している。自我に勝利させないことが、わたしたちのしなければならぬ戦いである。キリストを通してあなたは勝利することができ、キリストを通してあなたは克服することができる。(手紙 13a, 1879 年)

イエスのみ足跡

「それだから、あなたがたのなえた手と、弱くなっているひざとをまっすぐにしなさい。また、足のなえている者が踏みはずすことなく、むしろいやされるように、あなたがたの足のために、まっすぐな道をつくりなさい。」(ヘブル 12:12, 13)

サタンの王国の力は、悪の伝染力を広めるために悪魔の力を終結し一体にすることに見出される。しかし主イエスは、サタンの働きと反対方向に働くことのできる計画を案出された。主はご自分の王国の臣民である人類に、愛と一致の原則を吹き込もうと計画しておられる。きよめられた心をもって、彼らは聖化された心をもって互いに人格を形成し、良いものを強化し、伸ばさなければならない。彼らは天の資産として、キリストの相互的な愛を取り扱わなければならない。キリストの教会はこのお方の銘を身に帯びて、神がご自分の御子を世の救い主としておつかわしになったことを、世にあかししなければならない。……愛が黄金の糸のように彼らの行動すべてに織り込まれねばならない。

主にあって幸福なすべてのクリスチャンは、助けを必要とし、悩める者の心と人生に同じ幸福をもたらすために熱心に働くであろう。キリストに従う者は、キリストのような働きを成し遂げることにより他の人の心にも幸福をつくり出すであろう。彼らは天の態度で行動し天の特質を備えた実を結ぶであろう。人のまく所はその刈る所となる。

キリストの名を名乗るすべての魂が自分の道をまっすぐにすることはきわめて重要なことである。なぜだろうか。足の不自由な者も道を踏み外すことがないためである。一人の魂に間違った模範を示し、あなたは歩くことのできる道によってその人を曲がった道へ導くことは本当に恐ろしいことである。……他の人がクリスチャンとしてふさわしくないと、あなたが判断するようなことをしているのを見たならば、あなた自身が同じことを決してしないようにしなさい。……イエスの足跡に従っている限り、あなたは安全に歩むのである。……

わたしたちは他人の過ちを、譴責するために見るのではなく、回復し、いやすために見なければならない。目を覚まして祈り、イエスの霊をますます受けつつ、すべての水のほとりに同じものをまきつつ、前進し、向上しなさい。(手紙 89、1894年)

6月29日

ささいな奉仕を喜ぶ

「主よ、あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか。」(使徒行伝 9:6 欽定訳)

わたしたちの地位が何であるか、才能がどれほど限られているかは問題ではない。わたしたちには主なるお方のためにする働きがある。長所は訓練によって発達し、成長する。魂のうちに燃えている神の真理があるとき、わたしたちは怠惰でいることはできない。現世においても、活動の中でわたしたちが経験する幸福はあらゆる努力に報いるものである。キリストの奉仕の中で自製の努力の結果として生じる幸福を経験する者だけが、このことを理解して語ることができる。これはほんとうに言葉に言い表せないほど、非常に清く深い喜びである。

「……人生のつかの間の日をとおして

あなたのためにとっておかれた特別の仕事がある。

それは最も低い種類のものかもしれない。

それは最も高い能力を発揮するものかもしれない。

しかしあなた以外にあなたの仕事ができる者はない。

『あなたはわたしに何をおさせになるのですか』

あなたの贖い主の栄光を帰し、彼のために働きなさい。

毎瞬毎瞬上より照らされて、

一つ一つの行動を、神に栄光を帰そうと努め、

自我の思い一つさえ、命の輝きを曇らせてはならない。」……

日々の仕事に携わっている間もわたしたちはキリストと共に居ていただくことができる。わたしたちがどこにいても、どのような仕事に携わっていても、キリストに結びついているので、本当に高められるであろう。神の愛の確証を通して高貴にされ、清められた、もつともつましい毎日の義務に、わたしたちは取り掛かることができる。最もへりくだった天職において原則にしたがって働くと、それに尊厳を与える。わたしたちが本当にキリストの僕であるという意識は、わたしたちの毎日の義務に、品性のより高い傾向、いつも快活で忍耐強く、寛容で優しい気質を与える。……

もしあなたが原則に堅く、義務を恐れず、あなたの日ごとの働き、それがへりくだった、賤しいものであっても、その働きのうちに、キリストを例証することを熱心に努め、また、優しく愛情がこもっており、忍耐強く寛容で、侮辱に苦しみそれを許す準備ができていながら、あなたはすべての人に読まれ、かつ知られる生きた手紙になるであろう。(手紙 9、1873 年)

6月30日

時間という尊い宝

「夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。」(ローマ 13:12)

もし、わたしたちが最後に義人の報酬を共有したいのであれば、自分の猶予期間を賢く活用しなければならない。一瞬一瞬は黄金よりも尊い。……

主の来臨はもうすぐである。準備のための時間はわずかしか残っていない。もし尊い機会が軽んじられるなら、永遠の損失という結果になる。神と密接な交わりを保つ必要がある。聖霊に導かれ、支配されていないならば、わたしたちは一瞬といえども安全ではない。……

月日は……速やかに過ぎて行く。今年もその記録の重荷とともに間もなく過去のものとして数えられるであろう。残っている尊い数ヶ月を主なるお方のための熱心な魂の働きのためにささげよう。わたしたちは、すでに過ぎ去っているその数ヶ月を過ごした態度を、満足感をもって忠実な記録であるとみなすことができるであろうか。だれのためにもならなかったあらゆる行為を差し引きなさい。……そうすれば、神の栄光のために喜んでおこなった奉仕の記録は、どれほど少ししか残らないことであろうか。この記録は警告を発していないだろうか。どれほどたくさんの尊い時間が、利己的な満足感のために浪費されてきたことであろうか。わたしたちは自分自身を喜ばせるために、キリストのために働く機会をどれほどしばしば無視したことか。……

人生はそのすばらしい特権や機会と共に、速やかに終わりを告げる。品性における向上の時は過ぎ去ってしまう。わたしたちの罪を今悔い改め、小羊の血によってそれがぬぐい去られていないかぎり、天の台帳にあるそれらの罪は、きたるべき日にわたしたちに向かって立ちはだかるのである。……

人生は短い。世のものは使えば消えてしまう。賢くなって永遠のために築こう。わたしたちは自分の尊い一瞬一瞬を怠けて過ごしたり、永遠のために何の実も結ばない忙しい活動に携わったりする余裕はない。今まで怠惰、軽率、世俗的なことのために費やしてきた時間を、聖書の知識を得ることに、わたしたちの人生を美しくするために、他の人々の人生と品性を祝福し、気高くするために用いよう。この働きは神の是認を受けるものであり、「よくやった」との天よりの祝福を、わたしたちのために勝ち取るものである。(ビュー・アンド・ハルト 1886年6月15日)

神は彼らに対してきびしすぎるのでしょうか。そうではありません。このお方は罪の死に至る性質をご存知でした。そして罪がいかにかざるものすべてを荒らし、そこなうかをご存じでした。このお方は天のうろわしい調和が断ち切られたのをごらんになりました。今やそれは地上で再び始まり、ご自分が創造されたばかりの栄光に満ちたパラダイスを破滅させようとおびやかしていました。何かがなされなければなりませんでした。アダムとエバは罪が何を意味するか、それが何をするか、その代償が何かを理解させられなければなりませんでした。

それはまったく悲しいことでした。そしてあわれな二人のものが神に背を向けて、自分たちの美しいエデンという家庭から歩き出したとき、だれが一番残念に思っていたか、わたしにはわかりません。

暗やみがまし、森からはたくさんの動物の友だちが出てきました。彼らの不思議そうな目がたがいにたずねあっているかのようでした。何が起こったの？彼らはどこへ行こうとしているの？鳥たちでさえ、自分たちのご主人である人が自分の美しい妻と共に夜の中へ歩いて出て行くときの大きな心がはりさけるような泣き声をおそれる思いで聞いたとき、さえずりをやめて静まり返りました。

アダムとエバにとって、耐えがたくもつらかったのは、彼らもどれないと考えることでした。朝になるころには、エデンは思い出になるのです。彼らはそこに決して入ることができないのです。

自分たちが愛してきた、そして今も愛しているすべてのものを最後にひとめ見るためにふりかえったとき、彼らは自分たちの来た道にそって暗やみに差し込みふしぎに明るくしている光を見ました。それは御使の手にある火の武器のように見えました。そして炎の剣は「回」り、「命の木の道を守らせられた」。

道は閉ざされました。門は錠（じょう）がかけられました。一つの小さな罪の代償は、なんと大きかったことでしょう！

もやしの油揚げ巻き

■材料

もやし	1 袋
油揚げ	2 枚
えのきだけ	1 パック
青じそ	16 枚
塩昆布	ひとつまみ

(たれ)

水	半カップ
しょう油	大さじ1
顆粒昆布だし	小さじ1
塩	小さじ1
黒糖	大さじ1

■作り方

1. もやしとえのきだけをフライパンで炒め、塩昆布を加えます。
2. 油揚げを開いて、青じそを8枚並べます。
3. その上に、炒めた具材をのせます。
4. 油揚げをのり巻のようにまいて、巻き終わりに水で溶いた小麦粉で糊付けし、楊枝で止めます。
5. たれの材料を混ぜておきます。
6. 巻き終わりを下にして、フライパンで焼きます。
7. 焼き色がついたら、たれを入れ、全体にからんだら、火を止めます。
8. 4～6等分にして、器に盛ります。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理

お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。



書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

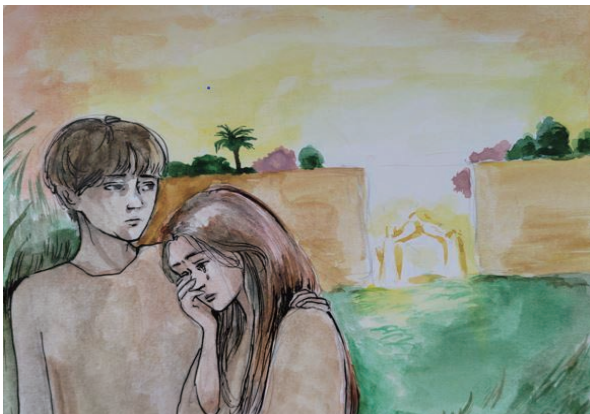
パート2 第9話

罪の代価(II)

彼らは神さまがご計画しておられた通りに永遠に生きることは、できなくなりました。永遠の命は彼らのものではなくなりました。今はそうではなくなったのです。死につつあり、彼らはずいに死んで、神さまが彼らを造られたものちりにかえらなければなりません。それは何百年も事実、長い時間をかけておこりますが、ついには死が彼らの運命となるのでした。

一方、彼らは自分たちの美しい家を去らなければなりません。彼らが過ごしていた気持ちの良いくつろいだ時間に代わって、彼らは一生のあいだ、つらい労働をしなければなりません。彼らは痛みと悲しみを知るようになるのでした。彼らは自分たちのしたことのゆえに、自然界すべてが彼らと共に苦しむのを見て、罪の恐ろしさ学ぶことになるのでした。

神は、深い憐れみのうちにアダムをごらんになって言われました、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草



を食べるであろう。あなたは顔に汗してパンを食べ、ついには土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

(67 ページに続く)